

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	ダイビング実習	
実務家教員	○	
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	事前講習、現場実技によるスクーバダイビングの習得	
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ	
達成目標	NAUIスクーバダイバー認定	
教科書	テキスト及び参考書	
特記	ダイビングインストラクターによるダイビング業界において必要なスキルを現状に応じて授業を行う	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・オリエンテーション 2 ダイビングの基礎知識・器材 3 物理Ⅰ（大気圧・水圧） 4 物理Ⅱ（圧力と体積） 5 物理Ⅲ（水中での空気の消費） 6 水中での身体Ⅰ（傷害） 7 水中での身体Ⅱ（対処法） 8 環境Ⅰ（水の性質） 9 環境Ⅱ（水中の生物） 10 自然保護 11 潜水時間の計画Ⅰ（ダイブテーブルの用語と使い方） 12 潜水時間の計画Ⅱ（反復潜水の計画） 13 ダイブ・コンピュータ 14 器材の使い方Ⅰ（スクーバシステムの組み立て・取り外し） 15 器材の使い方Ⅱ（浮力コントロール） 16 ダイビングの安全Ⅰ（ダイビングの計画） 17 ダイビングの安全Ⅱ（ダイビングのトラブル） 18 海洋実習Ⅰ（器材の確認） 19 海洋実習Ⅱ（スクーバシステムの組み立て・取り外し） 20 海洋実習Ⅲ（器材の使い方） 21 海洋実習Ⅳ（浮力コントロール） 22 海洋実習Ⅴ（マスククリア） 23 海洋実習Ⅵ（圧平衡） 24 海洋実習Ⅶ（潜降） 25 海洋実習Ⅷ（浮上） 26 海洋実習Ⅸ（器材の脱着） 27 海洋実習Ⅹ（水中でのコミュニケーション） 28 海洋実習Ⅺ（トラブル時の対応） 29 海洋実習Ⅻ（ダイビングの記録） 30 ダイビング実習まとめ 	
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	インターンシップ	
実務家教員	○	
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	事前研修、インターン実習、事後研修による実務経験	
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ	
達成目標	各企業よるインターン実習における高評価	
教科書	特に使用はしない	
特記	実務家より実習を通して各企業において必要なスキルを現状に応じて身に付ける	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 初日ガイダンス 2 インターン実習1 業界の基礎知識学習 3 インターン実習2 スポーツ業界におけるビジネスマナー 4 インターン実習3 ストアオペレーション基礎知識 5 インターン実習4 デ스플레이基礎知識 6 インターン実習5 健康についての専門知識と実践技能の取得 7 インターン実習6 健康支援についての専門知識と実践技能の取得 8 インターン実習7 スポーツ業界をヒト・モノ・カネ・情報という運営資源の側面からマネジメント 9 インターン実習8 接客業or小売業の専門知識について 10 インターン実習9 接客販売の心得 11 インターン実習10 状況別の店内接客 12 インターン実習11 敬語・クッション言葉・状況に応じた対応 13 インターン実習12 報告・連絡・相談について 14 インターン実習13 日誌 作成方法と振り返り方法 15 インターン実習14 スポーツイベントの現状歴史について 16 インターン実習15 スポーツ業界経済効果について 17 インターン実習16 パートナーシップ、スポンサー、PRについて 18 インターン実習17 企画立案・プレゼンテーションⅠ 19 インターン実習18 企画立案・プレゼンテーションⅡ 20 インターン実習19 企画立案・プレゼンテーションⅢ 21 インターン実習20 ストアオペレーション応用知識Ⅰ 22 インターン実習21 ストアオペレーション応用知識Ⅱ 23 インターン実習22 デ스플레이応用知識Ⅰ 24 インターン実習23 デ스플레이応用知識Ⅱ 25 インターン実習24 地域マーケティングⅠ 26 インターン実習25 地域マーケティングⅡ 27 インターン実習26 地域マーケティングⅢ 28 インターン実習27 エリアマーケティングⅠ 29 インターン実習28 エリアマーケティングⅡ 30 インターン実習29 エリアマーケティングⅢ 	
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 実習への参加姿勢、実習内レポートの完成度	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	一般教養 I	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期・後期	
科目区分	必修	
授業方法	演習	
授業時間	30時間（1単位）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	ビジネスで一般的に使用される熟語、四字熟語、慣用句などを学ぶ。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	一般教養として社会で求められる漢字能力を身に付けることを目的とする。	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 訓読み・送り仮名① 2 訓読み・送り仮名② 3 熟語① 4 熟語② 5 熟語③ 6 異字同訓・同音異義 7 誤字訂正① 8 誤字訂正②・類義語 9 反対語 10 漢字の意味・使い方① 11 漢字の意味・使い方② 12 項目別模擬試験① 13 項目別模擬試験② 14 直前模擬試験① 15 直前模擬試験② 	
成績評価方法 (試験実施方法)	模擬試験100% 模擬試験における科目解答状況	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容		
授業科目	ビジネス教養 I		
実務家教員			
学部・学科	スポーツ学科		
履修年次	1年次		
開講学期	前期・後期		
科目区分	必修		
授業方法	演習		
授業時間	30時間（1単位）		
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）		
授業概要	企業内で多岐にわたり使用される電卓のスピード、正確性を高める実技演習を行う。		
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る		
達成目標	電卓技能の向上を目的とする。		
教科書	オリジナルテキスト		
特記			
授業計画	1	電卓の使い方、端数の取り扱い	
	2	電卓演習①	
	3	電卓演習②	
	4	電卓演習③	
	5	電卓演習④	
	6	電卓演習⑤	
	7	電卓演習⑥	
	8	電卓演習⑦	
	9	電卓演習⑧	
	10	電卓演習⑨	
	11	電卓演習⑩	
	12	電卓演習⑪	
	13	電卓演習⑫	
	14	電卓演習⑬	
	15	確認テスト	
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト		
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容		
授業科目	コミュニケーション概論		
実務家教員			
学部・学科	スポーツ学科		
履修年次	1年次		
開講学期	前期・後期		
科目区分	必修		
授業方法	演習		
授業時間	30時間（1単位）		
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）		
授業概要	グループワークの形式、役割、手法について学ぶ		
授業の進め方	各種資料による講義とディスカッションを通じ、専門的な知識と思考の定着を図る		
達成目標	グループワークの手法について基礎的な知識を身に付ける		
教科書	配布プリント・資料		
特記			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 グループディスカッションとは① 2 グループディスカッションとは② 3 グループディスカッションの役割① 4 グループディスカッションの役割② 5 抽象テーマ型グループディスカッション① 6 抽象テーマ型グループディスカッション② 7 抽象テーマ型グループディスカッション③ 8 課題解決型グループディスカッション① 9 課題解決型グループディスカッション② 10 課題解決型グループディスカッション③ 11 KJ法① 12 KJ法② 13 資料読み取り型グループディスカッション① 14 資料読み取り型グループディスカッション② 15 資料読み取り型グループディスカッション③ 		
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、授業内レポートの完成度		
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容		
授業科目	キャリアデザイン I		
実務家教員			
学部・学科	スポーツ学科		
履修年次	1年次		
開講学期	前期・後期		
科目区分	必修		
授業方法	演習		
授業時間	30時間（1単位）		
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）		
授業概要	面接試験において求められるビジネスマナーの基礎を学ぶ		
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る		
達成目標	面接の入退室および自己PRができるようになる		
教科書	オリジナルテキスト		
特記			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 面接の基本 2 入退室の仕方 3 スーツの着こなし、身嗜み確認 4 自己PR作成① 5 自己PR作成② 6 自己PR作成③ 7 面接質問項目① 8 面接質問項目② 9 面接質問項目③ 10 会計事務所・企業研究① 11 会計事務所・企業研究② 12 模擬面接練習① 13 模擬面接練習② 14 模擬面接練習③ 15 模擬面接試験 		
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定		
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	簿記入門 I	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	30時間（1単位）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	株式会社における複式簿記の基本原則を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	簿記の基本原則の理解する	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 簿記の目的（基礎編） 2 簿記一巡（基礎編） 3 商品売買 I（基礎編） 4 商品売買 II（基礎編） 5 決算整理（基礎編） 6 精算表（基礎編） 7 現金および預金（基礎編） 8 手形（基礎編） 9 有形固定資産の決算整理（基礎編） 10 その他の債権および債務（基礎編） 11 その他の勘定および訂正仕訳（基礎編） 12 有形固定資産の決算整理（基礎編） 13 費用および収益の決算整理（基礎編） 14 株式会社の純資産（基礎編） 15 英米式決算法（基礎編） 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 	
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	2級商業簿記基礎 I	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	基本的な財務報告書類の作成方法・株式会社会計の基礎を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	決算整理を中心とした会計処理、勘定形式の報告書類の理解、企業取引に対する会計処理の理解を目的とする	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 簿記一巡の手続きと財務諸表（基礎編） 2 現金預金（基礎編） 3 債権・債務（基礎編） 4 棚卸資産（基礎編） 5 有価証券①（基礎編） 6 有価証券②（基礎編） 7 固定資産①（基礎編） 8 固定資産②（基礎編） 9 固定資産③（基礎編） 10 固定資産④（基礎編） 11 債務保証（基礎編） 12 引当金（基礎編） 13 収益と費用（基礎編） 14 為替換算会計（基礎編） 15 株式会社の純資産（基礎編） 16 企業結合（基礎編） 17 確認テスト（第1回） 18 税金①（基礎編） 19 税金②（基礎編） 20 伝票と帳簿（基礎編） 21 決算①（基礎編） 22 決算②（基礎編） 23 本支店会計①（基礎編） 24 本支店会計②（基礎編） 25 連結会計①（基礎編） 26 連結会計②（基礎編） 27 連結会計③（基礎編） 28 連結会計④（基礎編） 29 連結会計⑤（基礎編） 30 確認テスト（第2回）	
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	2級工業簿記基礎 I	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	工企業を前提とする会計処理の基礎を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	伝統的な個別原価計算および総合原価計算を学び、一部、原価計算の基礎についても習熟することを目的とする	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 工業簿記の基礎（基礎編） 2 個別原価計算における工業簿記の記帳体系（基礎編） 3 材料費会計（基礎編） 4 労務費会計（基礎編） 5 経費会計（基礎編） 6 製造間接費会計（基礎編） 7 製造間接費差異の原因別分析（基礎編） 8 単純個別原価計算（基礎編） 9 工企業の財務諸表（基礎編） 10 確認テスト（第1回） 11 部門別計算①（基礎編） 12 部門別計算②（基礎編） 13 総合原価計算における工業簿記の記帳体系（基礎編） 14 単純総合原価計算（基礎編） 15 工程別総合原価計算（基礎編） 16 組別総合原価計算（基礎編） 17 等級別総合原価計算（基礎編） 18 減損および仕損（基礎編） 19 標準原価計算①（基礎編） 20 標準原価計算②（基礎編） 21 標準原価計算③（基礎編） 22 CVP分析①（基礎編） 23 CVP分析②（基礎編） 24 直接原価計算（基礎編） 25 工業簿記総まとめ①（基礎編） 26 工業簿記総まとめ②（基礎編） 27 工業簿記総まとめ③（基礎編） 28 工業簿記総まとめ④（基礎編） 29 工業簿記総まとめ⑤（基礎編） 30 確認テスト（第2回） 	
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	2級簿記総合 I	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	演習	
授業時間	90時間（3単位）	
授業コマ数	45コマ（1コマ90分）	
授業概要	商企業および工企業の会計処理を問題演習を通じて学び、本支店会計、連結会計、原価計算の基礎も学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	簿記2級レベルの会計知識と計算技術の習得を目的とする	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 商業簿記総まとめ①（基礎編） 2 商業簿記総まとめ②（基礎編） 3 商業簿記総まとめ③（基礎編） 4 商業簿記総まとめ④（基礎編） 5 商業簿記総まとめ⑤（基礎編） 6 商業簿記総まとめ⑥（基礎編） 7 商業簿記総まとめ⑦（基礎編） 8 商業簿記総まとめ⑧（基礎編） 9 商業簿記総まとめ⑨（基礎編） 10 商業簿記総まとめ⑩（基礎編） 11 商業簿記総まとめ⑪（基礎編） 12 商業簿記総まとめ⑫（基礎編） 13 工業簿記・原価計算総まとめ①（基礎編） 14 工業簿記・原価計算総まとめ②（基礎編） 15 工業簿記・原価計算総まとめ③（基礎編） 16 工業簿記・原価計算総まとめ④（基礎編） 17 工業簿記・原価計算総まとめ⑤（基礎編） 18 工業簿記・原価計算総まとめ⑥（基礎編） 19 総合問題対策①（商業簿記と工業簿記_基礎編） 20 総合問題対策②（商業簿記と工業簿記_基礎編） 21 総合問題対策③（商業簿記と工業簿記_基礎編） 22 総合問題対策④（商業簿記と工業簿記_基礎編） 23 総合問題対策⑤（商業簿記と工業簿記_基礎編） 24 総合問題対策⑥（商業簿記と工業簿記_基礎編） 25 総合問題対策⑦（商業簿記と工業簿記_基礎編） 26 総合問題対策⑧（商業簿記と工業簿記_基礎編） 27 総合問題対策⑨（商業簿記と工業簿記_基礎編） 28 総合問題演習①（テスト形式_基礎編） 29 総合問題演習①（テスト形式_基礎編） 30 総合問題演習①（テスト形式_基礎編）	31 総合問題演習②（テスト形式_基礎編） 32 総合問題演習②（テスト形式_基礎編） 33 総合問題演習②（テスト形式_基礎編） 34 総合問題演習③（テスト形式_基礎編） 35 総合問題演習③（テスト形式_基礎編） 36 総合問題演習③（テスト形式_基礎編） 37 総合問題演習④（テスト形式_基礎編） 38 総合問題演習④（テスト形式_基礎編） 39 総合問題演習④（テスト形式_基礎編） 40 総合問題演習⑤（テスト形式_基礎編） 41 総合問題演習⑤（テスト形式_基礎編） 42 総合問題演習⑥（テスト形式_基礎編） 43 総合問題演習⑥（テスト形式_基礎編） 44 総合問題演習⑦（テスト形式_基礎編） 45 総合問題演習⑦（テスト形式_基礎編）
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	3級商業簿記基礎	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	90時間（3単位）	
授業コマ数	45コマ（1コマ90分）	
授業概要	株式会社における複式簿記の基本原則、簿記の基本原則を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	株式会社を前提とした一般的な企業取引に対する会計処理、企業取引に対する会計処理、報告書類の理解を目的とする	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 簿記の目的 2 簿記一巡 3 株式会社の資本①（意義、資本、発行） 4 株式会社の資本②（剰余金の配当） 5 商品売買①（商品売買、3分法、売掛金・買掛金） 6 商品売買②（返品、分記法） 7 商品売買③（仕入諸掛・販売諸掛、前受金・前払金、受取商品券） 8 決算①（決算） 9 決算②（決算整理） 10 決算③（繰越商品および仕入の決算整理） 11 決算④（決算整理後残高試算表） 12 決算⑤（精算表） 13 現金および預金①（現金、普通預金、当座預金） 14 現金および預金②（複数口座の管理、当座借越） 15 手形および電子記録債権・債務 16 受取手形および売掛金の決算整理 17 有形固定資産 18 現金過不足および現金、貯蔵品の決算整理 19 その他の債権および債務①（債権・債務、未収入金・未払金） 20 その他の債権および債務②（クレジット売掛金、手形貸付金・借入金） 21 その他の債権および債務③（仮払金・仮受金、差入保証金） 22 その他の勘定および訂正仕訳 23 その他の収益および費用 24 費用および収益の決算整理 25 税金 26 消費税および法人税等の決算整理 27 訂正仕訳 28 財務諸表の作成①（損益計算書①） 29 財務諸表の作成②（損益計算書②） 30 財務諸表の作成③（貸借対照表①）	31 財務諸表の作成④（貸借対照表②） 32 主要簿と補助簿 33 現金出納帳および当座預金出納帳 34 小口現金出納帳 35 仕入帳と売上帳 36 売掛金元帳と買掛金元帳 37 商品有高帳 38 手形記入帳 39 固定資産台帳 40 試算表の作成 41 伝票会計① 42 伝票会計② 43 確認テスト（第1回） 44 確認テスト（第2回） 45 確認テスト（第3回）
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	3級簿記総合	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	演習	
授業時間	120時間（4単位）	
授業コマ数	60コマ（1コマ90分）	
授業概要	基礎レベルではやや難しい会計処理を問題演習を通じて学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	簿記3級レベルの会計知識と計算技術の習得を目的とする	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 商業簿記総まとめ①（基礎編） 2 商業簿記総まとめ②（基礎編） 3 商業簿記総まとめ③（基礎編） 4 商業簿記総まとめ④（基礎編） 5 商業簿記総まとめ⑤（基礎編） 6 商業簿記総まとめ⑥（基礎編） 7 商業簿記総まとめ⑦（基礎編） 8 商業簿記総まとめ⑧（基礎編） 9 商業簿記総まとめ⑨（基礎編） 10 商業簿記総まとめ⑩（基礎編） 11 商業簿記総まとめ⑪（基礎編） 12 商業簿記総まとめ⑫（基礎編） 13 商業簿記総まとめ⑬（基礎編） 14 商業簿記総まとめ⑭（基礎編） 15 商業簿記総まとめ⑮（基礎編） 16 商業簿記総まとめ①（応用編） 17 商業簿記総まとめ②（応用編） 18 商業簿記総まとめ③（応用編） 19 商業簿記総まとめ④（応用編） 20 商業簿記総まとめ⑤（応用編） 21 商業簿記総まとめ⑥（応用編） 22 商業簿記総まとめ⑦（応用編） 23 商業簿記総まとめ⑧（応用編） 24 商業簿記総まとめ⑨（応用編） 25 商業簿記総まとめ⑩（応用編） 26 商業簿記総まとめ⑪（応用編） 27 商業簿記総まとめ⑫（応用編） 28 商業簿記総まとめ⑬（応用編） 29 商業簿記総まとめ⑭（応用編） 30 商業簿記総まとめ⑮（応用編）	31 総合問題対策① 32 総合問題対策② 33 総合問題対策③ 34 総合問題対策④ 35 総合問題対策⑤ 36 総合問題対策⑥ 37 総合問題対策⑦ 38 総合問題対策⑧ 39 総合問題対策⑨ 40 総合問題対策⑩ 41 総合問題対策⑪ 42 総合問題対策⑫ 43 総合問題対策⑬ 44 総合問題対策⑭ 45 総合問題対策⑮ 46 総合問題演習① 47 総合問題演習② 48 総合問題演習③ 49 総合問題演習④ 50 総合問題演習⑤ 51 総合問題演習⑥ 52 総合問題演習⑦ 53 総合問題演習⑧ 54 総合問題演習⑨ 55 総合問題演習⑩ 56 総合問題演習⑪ 57 総合問題演習⑫ 58 総合問題演習⑬ 59 総合問題演習⑭ 60 総合問題演習⑮
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	グループフィットネス理論	
実務家教員	○	
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
授業時間	90時間（3単位）	
授業コマ数	45コマ（1コマ90分）	
授業概要	グループフィットネスに必要な基礎知識の定着を図る	
授業の進め方	問題演習と解説に加え、必要に応じて復習講義を行い、より高度な知識定着を図る	
達成目標	グループフィットネスにおける基礎理論の習得	
教科書	テキスト及び参考書	
特記	JAPAN WELLNESS INNOVATION講師によるスポーツ業界において必要な理論を実体験に基づき授業を行う	
授業計画	1 エクササイズ・トレーニングの一般原則 2 健康・フィットネスの構成要素 3 健康・フィットネストレーニングに関する推奨事項 4 プロフェッショナルとしての責任 5 プロフェッショナルとしての考慮 6 エクササイズ評価 7 グループエクササイズのクラス構成 8 クラスの構成要素 9 運動生理学Ⅰ エアロビクスとアナエロビクス 10 運動生理学Ⅱ 運動のエネルギー源 11 運動生理学Ⅲ 3つのエネルギー代謝 12 運動生理学Ⅳ 糖質と脂肪のエネルギー代謝の関係 13 運動生理学Ⅴ 呼吸循環器の役割 14 運動生理学Ⅵ 呼吸循環器の運動時の変化 15 運動生理学Ⅶ 運動と酸素 16 運動生理学Ⅷ 最大酸素摂取量と無酸素性作業閾値 17 運動生理学Ⅸ トレーニング原則 18 運動生理学Ⅹ トレーニング効果と超回復 19 運動生理学Ⅺ 推奨トレーニングガイドライン 20 解剖学とキネシオロジーⅠ 神経の分類 21 解剖学とキネシオロジーⅡ 伸張反射 22 解剖学とキネシオロジーⅢ 骨の役割と特徴 23 解剖学とキネシオロジーⅣ 骨格 24 解剖学とキネシオロジーⅤ 身体軸 25 解剖学とキネシオロジーⅥ 役割 26 解剖学とキネシオロジーⅦ 筋肉の分類 27 解剖学とキネシオロジーⅧ 筋繊維のタイプ 28 解剖学とキネシオロジーⅨ 筋収縮様式と作用 29 解剖学とキネシオロジーⅩ レジスタントレーニングに使われる用語 30 解剖学とキネシオロジーⅪ 関節の構造	31 解剖学とキネシオロジーⅫ 関節の動きと筋 32 けがの予防と処置、安全対策Ⅰ 慢性障害 33 けがの予防と処置、安全対策Ⅱ 急性外傷 34 けがの予防と処置、安全対策Ⅲ 急性外傷の応急処置 35 けがの予防と処置、安全対策Ⅳ インストラクターのための救急法 36 けがの予防と処置、安全対策Ⅴ けがの予防対策 37 けがの予防と処置、安全対策Ⅵ 安全対策ガイドライン 38 けがの予防と処置、安全対策Ⅶ レジスタンス・トレーニング安全ガイドライン 39 栄養学と身体組成Ⅰ 栄養素 40 栄養学と身体組成Ⅱ 摂取目安 41 栄養学と身体組成Ⅲ 栄養障害 42 栄養学と身体組成Ⅳ エネルギーバランス 43 栄養学と身体組成Ⅴ 体型 44 栄養学と身体組成Ⅵ 体脂肪 45 グループフィットネス理論 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 演習授業内におけるチェックテストの解答状況	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	グループフィットネス演習	
実務家教員	○	
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	グループフィットネスに必要な実技知識の定着を図る	
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ	
達成目標	グループフィットネスにおける実技および指導力の習得	
教科書	テキスト及び参考書	
特記	JAPAN WELLNESS INNOVATION講師によるスポーツ業界において必要な指導の仕方を実体験に基づき授業を行う	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・オリエンテーション 2 指導テクニック 3 プレゼンテーションスキル 4 キューイング 5 クラス開始時のコメント 6 筋力、筋持久力向上トレーニングⅠ 主働筋と生体力学 7 筋力、筋持久力向上トレーニングⅡ 基本姿勢とアライメント 8 筋力、筋持久力向上トレーニングⅢ 胸と上背部の筋群 9 筋力、筋持久力向上トレーニングⅣ 肩と腕の筋群 10 筋力、筋持久力向上トレーニングⅤ 股関節周囲筋群と臀部の筋群 11 筋力、筋持久力向上トレーニングⅥ 脚部前側と脚部後ろ側の筋群 12 筋力、筋持久力向上トレーニングⅦ 体幹部前側と体幹部後ろ側の筋群 13 柔軟性トレーニングⅠ 内容と強度 14 柔軟性トレーニングⅡ 上半身のストレッチ 15 柔軟性トレーニングⅢ 下半身のストレッチ 16 カルディオトレーニングⅠ 内容と強度 17 カルディオトレーニングⅡ 動き 18 カルディオトレーニングⅢ フォーム・アライメント 19 カルディオトレーニングⅣ レッスン構成案作成 20 カルディオトレーニングⅤ レッスン構成案作成 21 ウォームアップⅠ 内容・構成要素・強度 22 ウォームアップⅡ 動き 23 ウォームアップⅢ フォーム・アライメント 24 ウォームアップⅣ レッスン構成案作成 25 ウォームアップⅤ レッスン構成案作成 26 クラスの最終パート 27 模擬レッスンⅠ 筋強化と柔軟性 28 模擬レッスンⅡ ウォームアップ・カルディオパート 29 模擬レッスンⅢ 45分間レッスン 30 グループフィットネス演習 まとめ 	
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、実践スキルの習熟状況	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	グループフィットネス実践	
実務家教員	○	
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	実習	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	グループフィットネスに必要な実技知識の定着を図る	
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ	
達成目標	グループフィットネスにおける実技および指導力の習得	
教科書	テキスト及び参考書	
特記	JAPAN WELLNESS INNOVATION講師によるスポーツ業界において必要な講習方法を実体験に基づき授業を行う	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 グループフィットネス業界Ⅰ フィットネスの利点 2 グループフィットネス業界Ⅱ グループエクササイズメソッド 3 グループフィットネス業界Ⅲ グループエクササイズの様式 4 総合的フィットネスⅠ 概要 5 総合的フィットネスⅡ 構成要素 6 総合的フィットネスⅢ 応用フィットネスの原則 7 指導基本Ⅰ 運動計画の考慮点・クラスの流れ 8 指導基本Ⅱ 一般的なクラス構成の運動要素 9 マルチトレーニング指導とエクササイズ方法Ⅰ マルチトレーニング概論 10 マルチトレーニング指導とエクササイズ方法Ⅱ 強化エクササイズ 11 マルチトレーニング指導とエクササイズ方法Ⅲ 心肺機能エクササイズ 12 マルチトレーニング指導とエクササイズ方法Ⅳ ヨガベースエクササイズ 13 マルチトレーニング指導とエクササイズ方法Ⅴ サイクルベースのエクササイズ 14 クラスの指導計画と準備Ⅰ 指導計画の重要性 15 クラスの指導計画と準備Ⅱ エクササイズ手法と用具の検討事項 16 クラスの指導計画と準備Ⅲ モディファイケーション動作の指導計画 17 クラスの指導計画と準備Ⅳ クラスのリハーサル 18 クラス動態への適応Ⅰ クラス動態概論・クラス前の準備 19 クラス動態への適応Ⅱ 参加者の配置・現場での検討事項・モニタリング 20 クラス動態への適応Ⅲ 動作の質と評価と保証 21 クラス動態への適応Ⅳ 全体的な安全の検討事項・緊急事態対応の概論 22 クラス動態への適応Ⅴ エクササイズの種類・リスク管理 23 コミュニケーションと学習スタイルⅠ グループでのコミュニケーションの理解 24 コミュニケーションと学習スタイルⅡ 指導 25 特別対象者のための包括的指導Ⅰ 包括的指導の概論・慢性疾患 26 特別対象者のための包括的指導Ⅱ 特別な対象者 27 クラスの結びつきとモチベーションⅠ 人間行動の影響・行動変容モデル 28 クラスの結びつきとモチベーションⅡ ブランドの確立とフィットネスコミュニティ 29 プロフェッショナルと法的責任Ⅰ プロフェッショナルの責任 30 プロフェッショナルと法的責任Ⅱ 法的そして倫理的配慮 	
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、実践スキルの習熟状況	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	救急法・蘇生法	
実務家教員	○	
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	実習	
授業時間	30時間（1単位）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	CPR（心肺蘇生法）・AEDの技術の習得・応急手当	
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ	
達成目標	救急法認定	
教科書	テキスト及び参考書	
特記	有識者により傷病者手当において必要なスキルを現状に応じて授業を行う	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 手当の基本 2 一次救命処置Ⅰ（手順・心肺蘇生法とは） 3 一次救命処置Ⅱ（気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ） 4 一次救命処置Ⅲ（AEDを用いた除細動） 5 運動と医学Ⅰ 救急処置法＜実習＞ 6 けがに対する応急手当の基礎知識 7 傷の手当（止血）傷の手当（包帯） 8 運動と医学Ⅱ 救急処置法＜実習＞ 9 骨折の手当Ⅰ（固定の効果と方法） 10 骨折の手当Ⅱ（上肢）（下肢） 11 運動と医学Ⅲ 救急処置法＜実習＞ 12 救急搬送の基礎知識 13 救急搬送（一人・複数人での搬送、災害時の対応） 14 急病対応 15 運動と医学Ⅳ 救急処置法＜実習＞ 	
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、実践スキルの習熟状況	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	情報処理基礎	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	120時間（4単位）	
授業コマ数	60コマ（1コマ90分）	
授業概要	情報技術の基礎となる考え方・仕組み・専門用語を理解する	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	社会人として必要な情報リテラシの基礎を身に付ける	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 基礎理論① 2 基礎理論② 3 基礎理論③ 4 アルゴリズムとプログラミング① 5 アルゴリズムとプログラミング② 6 アルゴリズムとプログラミング③ 7 アルゴリズムとプログラミング④ 8 コンピュータ構成要素、システム構成要素① 9 コンピュータ構成要素、システム構成要素② 10 コンピュータ構成要素、システム構成要素③ 11 ソフトウェア、ハードウェア、ヒューマンインターフェース① 12 ソフトウェア、ハードウェア、ヒューマンインターフェース② 13 ソフトウェア、ハードウェア、ヒューマンインターフェース③ 14 ソフトウェア、ハードウェア、ヒューマンインターフェース④ 15 マルチメディア、データベース① 16 マルチメディア、データベース② 17 マルチメディア、データベース③ 18 マルチメディア、データベース④ 19 マルチメディア、データベース⑤ 20 マルチメディア、データベース⑥ 21 ネットワーク① 22 ネットワーク② 23 ネットワーク③ 24 ネットワーク④ 25 ネットワーク⑤ 26 ネットワーク⑥ 27 セキュリティ① 28 セキュリティ② 29 セキュリティ③ 30 セキュリティ④	31 セキュリティ⑤ 32 企業活動① 33 企業活動② 34 企業活動③ 35 法務① 36 法務② 37 法務③ 38 経営戦略マネジメント① 39 経営戦略マネジメント② 40 経営戦略マネジメント③ 41 技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ① 42 技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ② 43 技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ③ 44 技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ④ 45 システム戦略、システム企画① 46 システム戦略、システム企画② 47 システム戦略、システム企画③ 48 システム戦略、システム企画④ 49 システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術① 50 システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術② 51 システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術③ 52 システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術④ 53 プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント① 54 プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント② 55 プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント③ 56 プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント④ 57 システム監査① 58 システム監査② 59 システム監査③ 60 システム監査④
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	Power Point基礎	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	PCの基礎操作並びにPowerPointの基礎操作を理解する	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	テキストを確認しながら練習問題を解くことが出来る操作力を身に付ける	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 プレゼンテーションの作成① 2 プレゼンテーションの作成② 3 スライドの挿入、書式設定① 4 スライドの挿入、書式設定② 5 配布資料、ノートの変更① 6 配布資料、ノートの変更② 7 配布資料、ノートの変更③ 8 スライドの並び替え、グループ化① 9 スライドの並び替え、グループ化② 10 スライドの並び替え、グループ化③ 11 オプションの変更① 12 オプションの変更② 13 オプションの変更③ 14 スライドショーの設定、実行① 15 スライドショーの設定、実行② 16 スライドショーの設定、実行③ 17 テキストの挿入、書式設定① 18 テキストの挿入、書式設定② 19 テキストの挿入、書式設定③ 20 図形・テキストボックスの挿入・書式設定① 21 図形・テキストボックスの挿入・書式設定② 22 図形・テキストボックスの挿入・書式設定③ 23 図の挿入、書式設定① 24 図の挿入、書式設定② 25 図の挿入、書式設定③ 26 図の挿入、書式設定④ 27 図形の並び替え、グループ化① 28 図形の並び替え、グループ化② 29 図形の並び替え、グループ化③ 30 図形の並び替え、グループ化④ 	
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	Power Point応用	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択履修必須	
授業方法	演習	
授業時間	30時間（1単位）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	PCの基礎操作並びにPowerPointの応用的な操作を習得する	
授業の進め方	問題演習と解説に加え、必要に応じて復習講義を行い、より高度な知識定着を図る	
達成目標	MOS PowerPointレベルの操作を習得する	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 表の挿入、設定 2 グラフの挿入、書式設定① 3 グラフの挿入、書式設定② 4 SmartArtの挿入、書式設定① 5 SmartArtの挿入、書式設定② 6 メディアの挿入、管理① 7 メディアの挿入、管理② 8 画面切り替えの設定① 9 画面切り替えの設定② 10 アニメーションの設定① 11 アニメーションの設定② 12 複数のコンテンツの結合① 13 複数のコンテンツの結合② 14 プレゼンテーションの保護、共有① 15 プレゼンテーションの保護、共有② 	
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	Word基礎	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解する	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	テキストを確認しながら練習問題を解くことが出来る操作力を身に付ける	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	1 文章の作成① 2 文章の作成② 3 文章内の移動① 4 文章内の移動② 5 文章の書式設定① 6 文章の書式設定② 7 文章の書式設定③ 8 文章の書式設定④ 9 オプションの設定、表示のカスタマイズ① 11 オプションの設定、表示のカスタマイズ② 12 オプションの設定、表示のカスタマイズ③ 13 文章の印刷、保存① 14 文章の印刷、保存② 15 文章の印刷、保存③ 16 文章の印刷、保存④ 17 文字列・段落の挿入① 18 文字列・段落の挿入② 19 文字列・段落の挿入③ 20 文字列・段落の挿入④ 21 文字列・段落の書式設定① 22 文字列・段落の書式設定② 23 文字列・段落の書式設定③ 24 文字列・段落の書式設定④ 25 文字列・段落の書式設定⑤ 26 文字列・段落の並び替え、グループ化① 27 文字列・段落の並び替え、グループ化② 28 文字列・段落の並び替え、グループ化③ 29 文字列・段落の並び替え、グループ化④ 30 文字列・段落の並び替え、グループ化⑤	
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	スポーツ指導論基礎	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	指導者の基礎的な知識を学び、指導者の役割についての理解を深める	
授業の進め方	問題演習と解説に加え、必要に応じて復習講義を行い、より高度な知識定着を図る	
達成目標	スポーツ指導における基礎理論・知識の習得	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	1 健康管理概論 指導者の役割Ⅰ（国内のトレーニング指導者に対するニーズ） 2 健康管理概論 指導者の役割Ⅱ（トレーニング指導者の役割と業務） 3 健康管理概論 指導者の役割Ⅲ（競技スポーツ分野における状況に応じた活動） 4 解剖学 I 上肢 5 解剖学 II 上肢 動作確認 6 解剖学 III 脊柱と胸郭 7 解剖学 IV 脊柱と胸郭 動作確認 8 解剖学 V 下肢 9 解剖学 VI 下肢 動作確認 10 運動処方 体力の概念 11 運動処方 体力の要素と体力モデル 12 バイオメカニクス 基礎理論Ⅰ（運動の記述） 13 バイオメカニクス 基礎理論Ⅱ（運動の分析） 14 運動生理学 呼吸循環系と運動 15 運動生理学 エネルギー代謝と運動 16 運動生理学 骨格筋の形態と機能 17 運動生理学 筋力発揮のメカニズム 18 運動生理学 呼吸循環器の運動時の変化 19 運動生理学 内分泌系と運動Ⅰ（内分泌器官とホルモン） 20 運動生理学 内分泌系と運動Ⅱ（レジスタンストレーニングとホルモン分泌） 21 スポーツ栄養学 運動と栄養に関する基礎理論Ⅰ（五大栄養素の役割） 22 スポーツ栄養学 運動と栄養に関する基礎理論Ⅱ（身体組成とエネルギー代謝） 23 スポーツ栄養学 運動と栄養に関する基礎理論Ⅲ（スポーツ栄養マネジメント） 24 スポーツ栄養学 健康増進と栄養の基礎知識Ⅰ（健康に関する目標と食事摂取基準） 25 スポーツ栄養学 健康増進と栄養の基礎知識Ⅱ（バランスガイドを活用した食事指導） 26 スポーツ心理学 運動と心理の基礎理論Ⅰ（心理面のかかわり・心理面を考慮した指導法） 27 スポーツ心理学 運動と心理の基礎理論Ⅱ（選手のメンタル面の強化、モチベーションの向上） 28 スポーツ心理学 運動と心理の基礎理論Ⅲ（指導者の考え方） 29 スポーツ医学 外傷、創傷の応急処置（RICE処置の重要性、留意点、止血法） 30 スポーツ指導論基礎まとめ	
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 演習授業内におけるチェックテストの解答状況	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	運動プログラム概論基礎	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	トレーニング立案及びプログラム作成	
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る	
達成目標	トレーニング立案及びプログラム作成し指導を行う	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 運動処方 トレーニング計画の立案Ⅰ（原理と原則） 2 運動処方 トレーニング計画の立案Ⅱ（超回復） 3 運動処方 トレーニング計画の立案Ⅲ（フィットネス-疲労理論） 4 運動処方 トレーニング計画の立案Ⅳ（トレーニングの効果） 5 運動処方 トレーニング計画の立案Ⅴ（トレーニングプログラムの作成手順） 6 運動処方 トレーニング計画の立案Ⅵ（プログラム変数の操作） 7 運動処方 トレーニング計画の立案Ⅶ（ピリオダイゼーション） 8 運動処方 筋力強化のプログラム作成Ⅰ（筋力トレーニングの効果） 9 運動処方 筋力強化のプログラム作成Ⅱ（プログラムの構成要素） 10 運動処方 筋力強化のプログラム作成Ⅲ（エクササイズの種類・配列） 11 運動処方 筋力強化のプログラム作成Ⅳ（負荷の設定） 12 運動処方 筋力強化のプログラム作成Ⅴ（目的に応じた条件設定） 13 運動処方 筋力強化のプログラム作成Ⅵ（プログラム作成例） 14 運動処方 パワー向上のプログラム作成Ⅰ（パワーの基本概念） 15 運動処方 パワー向上のプログラム作成Ⅱ（パワーの測定と評価） 16 運動処方 パワー向上のプログラム作成Ⅲ（プログラム戦略） 17 運動処方 パワー向上のプログラム作成Ⅳ（プログラム変数：種類） 18 運動処方 パワー向上のプログラム作成Ⅴ（プログラム変数：配列） 19 運動処方 パワー向上のプログラム作成Ⅵ（プログラム変数：強度） 20 運動処方 持久力向上のプログラム作成Ⅰ（持久力に関する基礎理論） 21 運動処方 持久力向上のプログラム作成Ⅱ（有酸素性持久力に対する基本的な適応） 22 運動処方 持久力向上のプログラム作成Ⅲ（無酸素性持久力に関する基礎理論） 23 運動処方 スピード向上のプログラム作成Ⅰ（スピードを向上させる要因） 24 運動処方 スピード向上のプログラム作成Ⅱ（基礎筋力、最大筋力、パワーの向上） 25 運動処方 スピード向上のプログラム作成Ⅲ（動作テクニックの獲得） 26 ストレッチングの理論と実際 柔軟性向上のプログラム作成（ストレッチング基礎理論） 27 ストレッチングの理論と実際 ウォームアップのプログラム作成Ⅰ（ウォームアップの効果、分類） 28 ストレッチングの理論と実際 ウォームアップのプログラム作成Ⅱ（一般的なウォームアップの例） 29 スポーツ社会学 トレーニング機器・器具の理解 30 運動プログラム概論基礎まとめ 	
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 演習授業内におけるチェックテストの解答状況	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	トレーニング指導演習 I	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	演習及び実習	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	筋力トレーニングに必要な実技知識の定着を図る	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	筋力トレーニングにおける実技および指導力の習得	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	1 トレーニング実践 筋力トレーニングⅠ 実施に当たって 2 トレーニング実践 筋力トレーニングⅡ ベンチプレス 3 トレーニング実践 筋力トレーニングⅢ スクワット 4 トレーニング実践 筋力トレーニングⅣ デッドリフト 5 トレーニング実践 筋力トレーニングⅤ 胸部・背部・肩部のエクササイズ 6 トレーニング実践 筋力トレーニングⅥ 上腕部・前腕部のエクササイズ 7 トレーニング実践 筋力トレーニングⅦ 大腿部及び股関節周辺部のエクササイズ 8 トレーニング実践 筋力トレーニングⅧ 下腿部のエクササイズ 9 トレーニング実践 筋力トレーニングⅨ 体幹のエクササイズ 10 トレーニング実践 筋力トレーニングのプログラム作成Ⅰ 筋力トレーニングの効果 11 トレーニング実践 筋力トレーニングのプログラム作成Ⅱ プログラムの条件設定 12 トレーニング実践 筋力トレーニングのプログラム作成Ⅲ 一般人を対象としたプログラム作成 13 トレーニング実践 筋力トレーニングのプログラム作成Ⅳ スポーツ選手を対象としたプログラム作成 14 トレーニング実践 パワー向上トレーニングⅠ クイックリフト（クリーン） 15 トレーニング実践 パワー向上トレーニングⅡ クイックリフト（ジャーク） 16 トレーニング実践 パワー向上トレーニングⅢ クイックリフト（スナッチ） 17 トレーニング実践 パワー向上トレーニングⅣ ジャンプ系エクササイズ 18 トレーニング実践 パワー向上トレーニングⅤ 上肢・下肢のプライオメトリクス 19 トレーニング実践 パワー向上トレーニングⅥ 体幹のプライオメトリクス 20 トレーニング実践 パワー向上トレーニングⅦ 複合動作のプライオメトリクス 21 トレーニング実践 パワー向上トレーニングⅧ フィットネス分野でのパワートレーニング 22 トレーニング実践 パワー向上トレーニングⅨ プログラム作成 23 トレーニング実践 パワー向上トレーニングのプログラム作成Ⅰ パワーの基本概念 24 トレーニング実践 パワー向上トレーニングのプログラム作成Ⅱ プログラム戦略・プログラム変数 25 体力測定の評価 測定と評価委の意義と目的 26 体力測定の評価 測定の一般的留意点 27 体力測定の評価 測定データの準備 28 体力測定の評価 得点化と評価法 29 体力測定の評価 統計的仮説検定の基礎 30 トレーニング指導者演習Ⅰまとめ	
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 演習授業内におけるチェックテストの解答状況	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	スタジオエクササイズ基礎実習	
実務家教員	○	
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	実習	
授業時間	30時間（1単位）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	グループフィットネスに必要な実技・技術の定着を図る	
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ	
達成目標	初心者向けのグループエクササイズのプログラム作成と実演スキルを身に付ける	
教科書	特に使用はしない	
特記	AFFAJAPAN講師によるスポーツ業界において必要なスタジオエクササイズを実体験に基づき授業を行う。	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 エアロビクスダンス指導 インストラクターとは（役割） 2 エアロビクス運動の理論 有酸素運動の強度の設定と評価 3 スタジオエクササイズ論Ⅰ（効果的で安全なプログラム作成） 4 スタジオエクササイズ論Ⅱ（プログラムの基本構成） 5 スタジオエクササイズ論Ⅲ（強度変化スキル） 6 エアロビクス運動の理論 低強度・中強度・高強度の各種エクササイズ 7 スタジオエクササイズ論Ⅳ（動きの展開） 8 スタジオエクササイズ論Ⅴ（コリオグラフィーの作り方） 9 エアロビクスダンス指導Ⅰ（良い姿勢・運動中の動き・動きの注意点） 10 エアロビクスダンス指導Ⅱ（上肢・下肢の動き、上肢、下肢の組み合わせ） 11 エアロビクスダンス指導Ⅲ（全体運動としてのバランス） 12 エアロビクスダンス指導Ⅳ（指導者の向き、立ち位置） 13 エアロビクス運動の理論 キューイングスキル（ビジュアル・バーバル） 14 デモレッスンの体験Ⅰ 15 デモレッスンの体験Ⅱ 	
成績評価方法 (試験実施方法)	研究発表100% 研究成果のプレゼンテーションに対する有識者の講評	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	スタジオレッスン実習	
実務家教員	○	
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	実習	
授業時間	30時間（1単位）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	グループフィットネスに必要な実技・技術の定着を図る	
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ	
達成目標	初心者向けの各種エクササイズのパログラム作成と実演スキルを身に付ける	
教科書	特に使用はしない	
特記	AFFAJAPAN講師によるスポーツ業界において必要なスタジオ運営を実体験に基づき授業を行う。	
授業計画	1 施設利用ガイダンス 2 エアロビクスダンス アクアスポーツ基礎Ⅰ（水中ウォーキング・アクアビクス） 3 エアロビクスダンス アクアスポーツ基礎Ⅱ（水中ウォーキング・アクアビクス） 4 アクアスポーツ演習Ⅰ（水中ウォーキング・アクアビクス基本動作習得） 5 アクアスポーツ演習Ⅱ（アクアビクス体験） 6 エアロビクスダンス 格闘技エクササイズ基礎Ⅰ（ボクササイズ） 7 エアロビクスダンス 格闘技エクササイズ演習Ⅰ（ボクササイズ基本動作習得） 8 格闘技エクササイズ演習Ⅱ（ボクササイズ体験） 9 エアロビクスダンス ダンスエクササイズ基礎Ⅰ（エアロビクス・ズンバ） 10 ダンスエクササイズ演習Ⅰ（エアロビクス体験） 11 ダンスエクササイズ演習Ⅱ（ズンバ体験） 12 チームスポーツ演習Ⅰ（チームスポーツ計画の作成） 13 チームスポーツ演習Ⅱ（チームスポーツ計画の実践・評価・修正） 14 チームスポーツ演習Ⅲ（チームスポーツ計画の作成） 15 チームスポーツ演習Ⅳ（チームスポーツ計画の実践・評価）	
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、実践スキルの習熟状況	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	Word応用	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	演習	
授業時間	30時間（1単位）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	PCの基礎操作並びにWordの応用的な操作を習得する	
授業の進め方	問題演習と解説に加え、必要に応じて復習講義を行い、より高度な知識定着を図る	
達成目標	MOS Wordレベルの操作を習得する	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 表の作成 2 表の変更① 3 表の変更② 4 リストの作成、変更① 5 リストの作成、変更② 6 参照のための情報・記号の作成、管理① 7 参照のための情報・記号の作成、管理② 8 標準の参考資料作成、管理① 9 標準の参考資料作成、管理② 10 グラフィック要素の挿入① 11 グラフィック要素の挿入② 12 グラフィック要素の書式設定① 13 グラフィック要素の書式設定② 14 SmartArtの挿入、書式設定① 15 SmartArtの挿入、書式設定② 	
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	販売知識基礎	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	90時間（3単位）	
授業コマ数	45コマ（1コマ90分）	
授業概要	仕入れ在庫管理・接客マナー・企画立案、マネジメントの知識を理解する	
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ	
達成目標	モノやサービスが売れる仕組みについての知識を身に付ける	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	1 販売員の役割① 2 販売員の役割② 3 販売員の役割③ 4 販売員の法廷知識① 5 販売員の法廷知識② 6 販売員の法廷知識③ 7 小売業の計数管理① 8 小売業の計数管理② 9 小売業の計数管理③ 10 店舗管理① 11 店舗管理② 12 店舗管理③ 13 店舗管理④ 14 店舗管理⑤ 15 店舗管理⑥ 16 流通における小売業① 17 流通における小売業② 18 流通における小売業③ 19 流通における小売業④ 20 流通における小売業⑤ 21 流通における小売業⑥ 22 組織形態別小売業① 23 組織形態別小売業② 24 組織形態別小売業③ 25 店舗形態別小売業① 26 店舗形態別小売業② 27 店舗形態別小売業③ 28 商業集積① 29 商業集積② 30 商業集積③	31 商業集積④ 32 商業集積⑤ 33 商業集積⑥ 34 小売業のマーケティング① 35 小売業のマーケティング② 36 小売業のマーケティング③ 37 小売業のマーケティング④ 38 小売業のマーケティング⑤ 39 小売業のマーケティング⑥ 40 顧客満足経営① 41 顧客満足経営② 42 顧客満足経営③ 43 顧客満足経営④ 44 顧客満足経営⑤ 45 顧客満足経営⑥
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	販売知識応用	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	演習	
授業時間	90時間（3単位）	
授業コマ数	45コマ（1コマ90分）	
授業概要	小売業について体系的に学び、実務的なビジネスの知識を理解する	
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ	
達成目標	リテールマーケティング検定3級レベルの知識を理解し身に付ける	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	1 証券の設定と出店① 2 証券の設定と出店② 3 証券の設定と出店③ 4 リージョナルプロモーション① 5 リージョナルプロモーション② 6 リージョナルプロモーション③ 7 顧客志向型売り場づくり① 8 顧客志向型売り場づくり② 9 顧客志向型売り場づくり③ 10 ストアオペレーション① 11 ストアオペレーション② 12 ストアオペレーション③ 13 ストアオペレーション④ 14 ストアオペレーション⑤ 15 ストアオペレーション⑥ 16 梱包技術① 17 梱包技術② 18 梱包技術③ 19 ディ스플레이① 20 ディ스플레이② 21 ディ스플레이③ 22 商品① 23 商品② 24 商品③ 25 マーチャンダイジング① 26 マーチャンダイジング② 27 マーチャンダイジング③ 28 マーチャンダイジング④ 29 マーチャンダイジング⑤ 30 マーチャンダイジング⑥	31 商品計画① 32 商品計画② 33 商品計画③ 34 販売計画及び仕入れ計画① 35 販売計画及び仕入れ計画② 36 販売計画及び仕入れ計画③ 37 価格設定① 38 価格設定② 39 価格設定③ 40 在庫管理① 41 在庫管理② 42 在庫管理③ 43 販売管理① 44 販売管理② 45 販売管理③
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	スポーツ指導論応用	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	運動の基礎的な知識を学び対象に合わせた、体に考慮した指導がどのように実践されているのかを理解する	
授業の進め方	問題演習と解説に加え、必要に応じて復習講義を行い、より高度な知識定着を図る	
達成目標	運動指導における基礎理論・知識の習得	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	1 バイオメカニクス I（スポーツ動作：歩動作、走動作、跳動作） 2 バイオメカニクス II（スポーツ動作：投動作、打動作、蹴動作） 3 バイオメカニクス III（スポーツ動作：滑走動作、泳動作など） 4 バイオメカニクス IV（トレーニング動作） 5 スポーツ栄養学 スポーツ選手の競技力向上と栄養I（種目特性の分類と食事） 6 スポーツ栄養学 スポーツ選手の競技力向上と栄養II（トレーニングスケジュールと食事） 7 スポーツ栄養学 スポーツ選手の競技力向上と栄養III（栄養・食事計画の立案と食事管理） 8 スポーツ栄養学 スポーツ選手の競技力向上と栄養IV（まとめ） 9 スポーツ心理学 運動と心理のスポーツ選手への活用I（メンタルトレーニング） 10 スポーツ心理学 運動と心理のスポーツ選手への活用II（練習前の心理的準備、目標設定） 11 スポーツ心理学 運動と心理のスポーツ選手への活用III（試合に向けた心理的準備、イメトレ） 12 スポーツ心理学 運動と心理のスポーツ選手への活用IV（まとめ） 13 スポーツ心理学 運動と心理の一般人の健康増進への活用I（各種スポーツとメンタルヘルス） 14 スポーツ心理学 運動と心理の一般人の健康増進への活用II（メンタルヘルスとスポーツ傷害） 15 スポーツ心理学 運動と心理の一般人の健康増進への活用III（カウンセリング） 16 スポーツ心理学 運動と心理の一般人の健康増進への活用IV（まとめ） 17 スポーツ医学 スポーツ傷害I（足部、足関節、下腿部、膝関節） 18 スポーツ医学 スポーツ傷害II（大腿部、腰部、肩、肘、手関節） 19 スポーツ医学 生活習慣病とその予防（健康づくりのための身体活動基準） 20 スポーツ医学 肥満に対する理解と運動指導I（肥満とは） 21 スポーツ医学 肥満に対する理解と運動指導II（減量、運動指導） 22 スポーツ医学 糖尿病に対する理解と運動指導I（糖尿病とは） 23 スポーツ医学 糖尿病に対する理解と運動指導II（運動指導） 24 スポーツ医学 脂質異常症に対する理解と運動指導I（脂質異常症とは） 25 スポーツ医学 脂質異常症に対する理解と運動指導II（運動指導） 26 スポーツ医学 高血圧症に対する理解と運動指導I（高血圧症とは） 27 スポーツ医学 高血圧症に対する理解と運動指導II（運動指導） 28 発育発達論 運動指導の科学I（動作の成り立ち、神経系の発達） 29 発育発達論 運動指導の科学II（動作の習得と練習方法） 30 スポーツ指導論応用まとめ	
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 演習授業内におけるチェックテストの解答状況	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	運動プログラム概論応用	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	個別のクライアントに向けたトレーニング立案及びプログラム作成	
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る	
達成目標	トレーニング立案及びプログラム作成し指導を行う	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 運動処方 トレーニングプログラム基礎の確認 2 運動処方 筋力強化のプログラム作成応用Ⅰ（特殊なセットの組み方） 3 運動処方 筋力強化のプログラム作成応用Ⅱ（特殊なトレーニングシステム） 4 運動処方 パワー向上のプログラム作成応用Ⅰ（反動動作における生理学的基礎） 5 運動処方 パワー向上のプログラム作成応用Ⅱ（プライオメトリクスの変数） 6 運動処方 パワー向上のプログラム作成応用Ⅲ（長期的な計画） 7 運動処方 パワー向上のプログラム作成応用Ⅳ（フィットネス分野のトレーニング） 8 運動処方 持久力向上のプログラム作成応用Ⅰ（プログラム作成の基本） 9 運動処方 持久力向上のプログラム作成応用Ⅱ（プログラム作成の実際） 10 運動処方 スピード向上のプログラム作成応用Ⅰ（アジリティの強化） 11 運動処方 スピード向上のプログラム作成応用Ⅱ（オーブンスキルアジリティの強化） 12 運動処方 スピード向上のプログラム作成応用Ⅲ（プログラムデザイン、変数） 13 運動処方 柔軟性向上のプログラム作成応用（ストレッチングとスポーツ傷害） 14 運動処方 特別な対象のためのプログラム作成Ⅰ（メタボリックシンドロームとは） 15 運動処方 特別な対象のためのプログラム作成Ⅱ（内臓脂肪型肥満に対するプログラム） 16 運動処方 特別な対象のためのプログラム作成Ⅲ（2型糖尿病に対するプログラム） 17 運動処方 特別な対象のためのプログラム作成Ⅳ（脂質異常症に対するプログラム） 18 運動処方 特別な対象のためのプログラム作成Ⅴ（高血圧症に対するプログラム） 19 運動処方 特別な対象のためのプログラム作成Ⅵ（高齢者に対するプログラム） 20 運動処方 特別な対象のためのプログラム作成Ⅶ（妊婦に対するプログラム） 21 運動処方 特別な対象のためのプログラム作成Ⅷ（子供に対するプログラム） 22 運動処方 アスレティックリハビリテーション概論 23 運動処方 アスリハにおける評価 24 運動処方 アスリハのプログラム作成Ⅰ（治療過程、物理療法等の理解） 25 運動処方 アスリハのプログラム作成Ⅱ（各種強化訓練） 26 運動処方 アスリハのプログラム作成Ⅲ（段階的アスリハ） 27 スポーツ社会学 トレーニング環境 28 スポーツ社会学 リスクマネジメント 29 スポーツ社会学 運動指導のための情報収集と活用 30 運動プログラム概論応用まとめ 	
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 演習授業内におけるチェックテストの解答状況	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	トレーニング指導演習Ⅱ	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	演習及び実習	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	トレーニングプログラム作成・指導	
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る	
達成目標	トレーニング立案及びプログラム作成し指導を行う	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・オリエンテーション 2 トレーニング実践 持久力向上トレーニングⅠ 安全に関するガイドライン 3 トレーニング実践 持久力向上トレーニングⅡ ウォームアップとクールダウン 4 トレーニング実践 持久力向上トレーニングⅢ ウォーキング・ランニング 5 トレーニング実践 持久力向上トレーニングⅣ トレッドミル・自転車エルゴメータ 6 トレーニング実践 持久力向上トレーニングⅤ 持続性トレーニング 7 トレーニング実践 持久力向上トレーニングⅥ レベティショントレーニング 8 トレーニング実践 持久力向上トレーニングⅦ デイトレーニング・オーバートレーニング 9 トレーニング実践 持久力向上トレーニングⅧ レジスタンストレーニング・ブリオメトリクス 10 トレーニング実践 持久力向上トレーニングのプログラム作成Ⅰ 持久力に関する基礎理論 11 トレーニング実践 持久力向上トレーニングのプログラム作成Ⅱ 有酸素持久力向上トレーニング 12 トレーニング実践 持久力向上トレーニングのプログラム作成Ⅲ 無酸素性持久力向上トレーニング 13 トレーニング実践 持久力向上トレーニングのプログラム作成Ⅳ プログラム作成の基本 14 トレーニング実践 持久力向上トレーニングのプログラム作成Ⅴ 健康保持を目的としたプログラム 15 トレーニング実践 持久力向上トレーニングのプログラム作成Ⅵ 年齢に応じたトレーニングプログラム 16 トレーニング実践 持久力向上トレーニングのプログラム作成Ⅶ アスリートの競技力向上のためのプログラム 17 トレーニング実践 スピード向上トレーニングⅠ スピードの概念 18 トレーニング実践 スピード向上トレーニングⅡ 基本動作 19 トレーニング実践 スピード向上トレーニングⅢ 基本動作を習得するドリル 20 トレーニング実践 スピード向上トレーニングⅣ エクササイズのリベル分けと分類、選定 21 トレーニング実践 スピード向上トレーニングのプログラム作成Ⅰ スピードを向上させる要因 22 トレーニング実践 スピード向上トレーニングのプログラム作成Ⅱ 動作テクニックの獲得 23 トレーニング実践 スピード向上トレーニングのプログラム作成Ⅲ アジリティ・オープンスキルアジリティの強化 24 トレーニング実践 スピード向上トレーニングのプログラム作成Ⅳ トレーニング変数 25 ストレッチングの理論と実際 柔軟性向上トレーニングⅠ スタティックストレッチ 26 ストレッチングの理論と実際 柔軟性向上トレーニングⅡ パートナーストレッチ 27 ストレッチングの理論と実際 柔軟性向上トレーニングⅢ ダイナミックストレッチ 28 ストレッチングの理論と実際 柔軟性向上トレーニングのプログラム作成Ⅰ ウォームアップとクールダウン 29 ストレッチングの理論と実際 柔軟性向上トレーニングのプログラム作成Ⅱ ウォームアップのプログラム作成 30 トレーニング指導演習Ⅱ まとめ 	
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 演習授業内におけるチェックテストの解答状況	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	ネットビジネス基礎	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	ネットショップ事務の共通知識、制作・運用に必要な知識を理解する	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	eコマース業界における全体像の基本的な知識を身に付ける	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ビジネスショップのビジネス環境① 2 ビジネスショップのビジネス環境② 3 ビジネスショップのビジネス環境③ 4 ビジネスショップのビジネス環境④ 5 ビジネスショップのビジネス環境⑤ 6 小売業の分類と特徴① 7 小売業の分類と特徴② 8 小売業の分類と特徴③ 9 小売業の分類と特徴④ 10 小売業の分類と特徴⑤ 11 ネットショップの位置づけ① 12 ネットショップの位置づけ② 13 ネットショップの位置づけ③ 14 ネットショップの位置づけ④ 15 ネットショップの位置づけ⑤ 16 ネットショップの動向① 17 ネットショップの動向② 18 ネットショップの動向③ 19 ネットショップの動向④ 20 ネットショップの動向⑤ 21 ネットショップの出店形態と特徴① 22 ネットショップの出店形態と特徴② 23 ネットショップの出店形態と特徴③ 24 ネットショップの出店形態と特徴④ 25 ネットショップの出店形態と特徴⑤ 26 ネットショップ事務の共通知識① 27 ネットショップ事務の共通知識② 28 ネットショップ事務の共通知識③ 29 ネットショップ事務の共通知識④ 30 ネットショップ事務の共通知識⑤ 	
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	専門コンディショニング	
実務家教員	○	
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	実習	
授業時間	30時間（1単位）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	テーピング、ストレッチ、リラクゼーションの基礎知識・スキルを学ぶ	
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ	
達成目標	テーピング、ストレッチ、リラクゼーションの基礎知識・スキルの定着	
教科書	特に使用はしない	
特記	有識者によるスポーツ業界において必要な専門コンディショニングを実体験に基づき授業を行う。	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 テーピング法の知識と基本テクニック 2 テーピング法Ⅰ（大腿部・下腿部） 3 テーピング法Ⅱ（上背部・肩部・腰部） 4 テーピング法Ⅲ（前腕部・上腕部・手首） 5 ストレッチ法の知識と基本テクニック 6 ストレッチ法Ⅰ（上半身可動性） 7 ストレッチ法Ⅱ（下半身可動性） 8 ストレッチ法Ⅲ（リラクゼーション） 9 スポーツマッサージ法の知識と基本テクニック 10 スポーツマッサージ法Ⅰ（手技・手法） 11 スポーツマッサージ法Ⅱ（実技） 12 スポーツマッサージ法Ⅲ（応用） 13 スポーツ栄養学Ⅰ（食教育・食環境） 14 スポーツ栄養学Ⅱ（コンディション管理・増量・減量） 15 スポーツ栄養学Ⅲ（サプリメント） 	
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、実践スキルの習熟状況	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	マシントレーニング実習	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	実習	
授業時間	30時間（1単位）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	トレーニングマシンの安全、且つ効果的な使用方法を学び、器具を使用したプログラムスキルを学ぶ	
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ	
達成目標	トレーニング器具を使用した安全で効果的なプログラムを作成するスキルを身に付ける	
教科書	特に使用はしない	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 トレーニングの基礎・原理・準備について学ぶ 2 パワーポイント・スティッキングポイントの理解 3 マシントレーニングの特性について学ぶ 4 マシントレーニング 1RM測定方法・最大拳上回数と安全性について学ぶ 5 ストレッチングの効果と留意点 6 フリーウェイトトレーニングのトレーニング原理について学ぶ 7 フリーウェイトトレーニング 関節可動域の理解を学ぶ 8 レジスタンストレーニングⅠ 骨格筋の構造 9 レジスタンストレーニングⅡ 筋収縮メカニズム 10 ピリオダイゼーションのトレーニング原理について学ぶ 11 サーキットトレーニングのトレーニング原理について学ぶ 12 体力の分類やフィジカルテストの評価を学ぶ 13 トレーニングの計画方法について学ぶ 14 トレーニングの計画から実践 15 トレーニングの計画の改善・修正 	
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、実践スキルの習熟状況	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	キャンプ実習	
実務家教員	○	
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	実習	
授業時間	30時間（1単位）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	事前講習、現場実技によるキャンプスキルの習得	
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ	
達成目標	キャンプ実習インストラクター認定	
教科書	テキスト及び参考書	
特記	キャンプインストラクターによるキャンプ業界において必要なスキルを現状に応じて授業を行う	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 キャンプの特性Ⅰ（キャンプの意義と目的） 2 キャンプの特性Ⅱ（キャンプの組織と種類、キャンプのルールとマナー） 3 キャンプの対象（人間と自然の関係） 4 キャンプの指導（コミュニケーションスキル） 5 キャンプの安全（キャンプにおける安全の考え方） 6 キャンプの基本装備（個人装備、団体装備） 7 キャンプの生活技術Ⅰ（テントの設置、アウトドアクッキング、キャンプ道具） 8 キャンプの生活技術Ⅱ（ロープワーク、キャンプと天気） 9 さまざまなアクティビティⅠ（冒険プログラム） 10 さまざまなアクティビティⅡ（オリエンテーリング活動） 11 さまざまなアクティビティⅢ（地域学習・生活文化体験） 12 さまざまなアクティビティⅣ（キャンプファイアー） 13 さまざまなアクティビティⅤ（荒天時の活動） 14 キャンプの安全Ⅰ（事故対応マニュアル） 15 キャンプの安全Ⅱ（危険予知とその対処） 	
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	スキー基礎技術論	
実務家教員	○	
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	実習	
授業時間	30時間（1単位）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	現場実技によるスキースキルの習得	
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ	
達成目標	スキー検定認定	
教科書	特に使用はしない	
特記	インストラクターによるスキーにおいて必要なスキルを現状に応じて授業を行う	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 初歩動作から一人すべり スキーの楽しさ知る・安全の確保・マナー 2 八の字から連続回転 3 連続回転からパラレル 4 パラレルターンⅠ リズム・タイミング・コース取り（大回り） 5 パラレルターンⅡ リズム・タイミング・コース取り（小回り） 6 八の字と平行を組み合わせるⅠ 基礎技能の強化 7 八の字と平行を組み合わせるⅡ パラレルターンの基礎 8 八の字と平行を組み合わせるⅢ パラレルターンの応用 9 八の字と平行を組み合わせるⅣ パラレルターンの習得 10 スキーを揃えて滑るⅠ 整地・コブ斜面（小回り・大回り） 11 スキーを揃えて滑るⅡ 整地・コブ斜面 応用技能の強化 12 リズム変化 状況対応能力の強化 13 リズム変化 斜度変化 14 リズム変化 スピード・不整地の対応 15 バッジテスト 	
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、実践スキルの習熟状況	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	スノーボード基礎技術論	
実務家教員	○	
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	実習	
授業時間	30時間（1単位）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	現場実技によるスノーボードスキルの習得	
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ	
達成目標	スノーボード検定認定	
教科書	特に使用はしない	
特記	インストラクターによるスノーボードにおいて必要なスキルを現状に応じて授業を行う	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 初歩動作から一人ずつ スノーボードの楽しさ知る・安全の確保・マナー 2 ノーズドロップからの停止（ターンと停止） 3 ターンの形、サイズ変更Ⅰ ミドルターン 4 ターンの形、サイズ変更Ⅱ ロングターン 5 ターンの形、サイズ変更Ⅲ ショートターン 6 ターンの形、サイズ変更Ⅳ カービングターンロング 7 ターンの形、サイズ変更Ⅴ カービングターンショート 8 ターンの形、サイズ変更Ⅵ ベーシックカーブロング 9 ターンの形、サイズ変更Ⅶ フリーライディング 10 ターンの形、サイズ変更の応用 ベーシックカーブショート 11 ターンの形、サイズ変更の応用 ベーシックカーブロング 12 ターンの形、サイズ変更の応用 フリーライディング 13 リズム変化 斜度変化 14 リズム変化 スピード・不整地の対応 15 バッジテスト 	
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、実践スキルの習熟状況	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容		
授業科目	スポーツビジネスキャリアデザインⅠ		
実務家教員			
学部・学科	スポーツ学科		
履修年次	1年次		
開講学期	前期・後期		
科目区分	選択		
授業方法	講義		
授業時間	30時間（1単位）		
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）		
授業概要	スポーツ系販売・接客・営業職内定へ向けた身だしなみ、敬語、筆記試験について学ぶ		
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る		
達成目標	スポーツ系販売・接客・営業職内定へ向けた一般的に必要な知識を身に付ける		
教科書	オリジナルテキスト		
特記			
授業計画	1	スポーツ系販売・接客・営業職に適したスーツの着こなし	
	2	スポーツ系販売・接客・営業職に適した身だしなみ	
	3	敬語の使い方	
	4	スポーツ系販売・接客・営業職で良く聞かれる質疑応答①	
	5	スポーツ系販売・接客・営業職で良く聞かれる質疑応答②	
	6	筆記試験とは（一般常識試験）①	
	7	筆記試験とは（一般常識試験）②	
	8	筆記試験とは（適性検査試験）①	
	9	筆記試験とは（適性検査試験）②	
	10	作文の目的・形式と内容①	
	11	作文の目的・形式と内容②	
	12	作文の実践テクニック①	
	13	作文の実践テクニック②	
	14	作文の実践テクニック③	
	15	作文の実践テクニック④	
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、授業内レポートの完成度		
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容		
授業科目	スポーツビジネスキャリアデザインⅡ		
実務家教員			
学部・学科	スポーツ学科		
履修年次	1年次		
開講学期	前期・後期		
科目区分	選択		
授業方法	講義		
授業時間	30時間（1単位）		
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）		
授業概要	スポーツ系販売・接客・営業職内定へ向けた職種研究方法について学ぶ		
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る		
達成目標	スポーツ系販売・接客・営業職内定へ向けた志望理由を作れるようになる		
教科書	オリジナルテキスト		
特記			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 仕事選びの基準 2 求人票からの情報収集 3 会社四季報、新聞からの情報収集① 4 会社四季報、新聞からの情報収集② 5 総合職と一般職 6 スポーツ系販売・接客・営業職職種研究① 7 スポーツ系販売・接客・営業職職種研究② 8 スポーツ系販売・接客・営業職職種研究③ 9 スポーツ系販売・接客・営業職職種研究④ 10 スポーツ系販売・接客・営業職職種研究⑤ 11 スポーツ系販売・接客・営業職への志望理由① 12 スポーツ系販売・接客・営業職への志望理由② 13 スポーツ系販売・接客・営業職への志望理由③ 14 スポーツ系販売・接客・営業職への志望理由④ 15 スポーツ系販売・接客・営業職への志望理由⑤ 		
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、授業内レポートの完成度		
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	スポーツキャリアデザイン I	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1 年次	
開講学期	前期・後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	30 時間（1 単位）	
授業コマ数	15 コマ（1 コマ 90 分）	
授業概要	スポーツトレーナーやスポーツクラブインストラクターなどのスポーツ系の接客職内定へ向けた身だしなみ、敬語、筆記試験について学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	スポーツトレーナーやスポーツクラブインストラクターなどのスポーツ系の接客職内定へ向けた一般的に必要な知識を身に付ける	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 スポーツ系接客職に適したスーツの着こなし 2 スポーツ系接客職に適した身だしなみ 3 敬語の使い方 4 スポーツ系接客職で良く聞かれる質疑応答① 5 スポーツ系接客職で良く聞かれる質疑応答② 6 筆記試験とは（一般常識試験）① 7 筆記試験とは（一般常識試験）② 8 筆記試験とは（適性検査試験）① 9 筆記試験とは（適性検査試験）② 10 作文の目的・形式と内容① 11 作文の目的・形式と内容② 12 作文の実践テクニック① 13 作文の実践テクニック② 14 作文の実践テクニック③ 15 作文の実践テクニック④ 	
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 実習への参加姿勢、実習内レポートの完成度	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	スポーツキャリアデザインⅡ	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期・後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	30時間（1単位）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	スポーツトレーナーやスポーツクラブインストラクターなどのスポーツ系の接客職内定へ向けた職種研究方法について学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	スポーツトレーナーやスポーツクラブインストラクターなどのスポーツ系の接客職内定へ向けた志望理由を作れるようになる	
教科書	配布プリント・資料	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 仕事選びの基準 2 求人票からの情報収集 3 会社四季報、新聞からの情報収集① 4 会社四季報、新聞からの情報収集② 5 総合職と一般職 6 スポーツ系接客職職種研究① 7 スポーツ系接客職職種研究② 8 スポーツ系接客職職種研究③ 9 スポーツ系接客職職種研究④ 10 スポーツ系接客職職種研究⑤ 11 スポーツ系接客職への志望理由① 12 スポーツ系接客職への志望理由② 13 スポーツ系接客職への志望理由③ 14 スポーツ系接客職への志望理由④ 15 スポーツ系接客職への志望理由⑤ 	
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 実習への参加姿勢、実習内レポートの完成度	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	一般常識	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	必修	
授業方法	演習	
授業時間	40時間	
授業コマ数	20コマ	
授業概要	漢字の学習を通じ、ことわざや故事成語など国語分野に関する知識まで身につける	
授業の進め方	問題集に基づき、指定された範囲の確認テストを実施する	
達成目標	日本ビジネス技能検定協会漢字検定1級に合格する	
教科書	問題集・プリント	
特記		
授業計画	1 訓読み・送り仮名・熟語① 2 訓読み・送り仮名・熟語② 3 訓読み・送り仮名・熟語③ 4 同音異義・異字同訓① 5 同音異義・異字同訓② 6 誤字訂正、類義語・反対語① 7 誤字訂正、類義語・反対語② 8 漢字の意味・使い方① 9 漢字の意味・使い方② 10 漢字の意味・使い方③ 11 ことわざ・故事成語・慣用句① 12 ことわざ・故事成語・慣用句② 13 ことわざ・故事成語・慣用句③ 14 特殊な漢字の読み書き① 15 特殊な漢字の読み書き② 16 特殊な漢字の読み書き③ 17 項目別模擬試験① 18 項目別模擬試験② 19 直前模擬試験① 20 直前模擬試験②	
成績評価方法 (試験実施方法)	模擬試験100% 模擬試験における得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	時事対策	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	必修	
授業方法	講義	
授業時間	40時間	
授業コマ数	20コマ	
授業概要	現代社会における主要な時事の基本用語を理解し、自分の考えや意見を持つための学習	
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る	
達成目標	主要な時事の基本用語が理解できている 自ら時事に関する情報収集を行い、自分の考えや意見を伝えることができる	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	1 用語知識① 2 用語知識② 3 用語知識③ 4 用語知識④ 5 用語知識⑤ 6 用語知識⑥ 7 用語知識⑦ 8 考え方① 9 考え方② 10 考え方③ 11 考え方④ 12 考え方⑤ 13 発表① 14 発表② 15 発表③ 16 発表④ 17 個人研究① 18 個人研究② 19 個人研究③ 20 個人研究④	
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	電卓技能	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	必修	
授業方法	演習	
授業時間	40時間	
授業コマ数	20コマ	
授業概要	電卓の学習を通じ、計算技能・集中力を養う	
授業の進め方	問題集に基づき、指定された範囲の問題を電卓にて計算する	
達成目標	電卓技能検定1・2級に合格する	
教科書	検定対策テキストおよび問題集	
特記		
授業計画	1 小数点以下の取り扱い諸注意 2 電卓実践演習① 3 電卓実践演習② 4 電卓実践演習③ 5 電卓実践演習④ 6 電卓実践演習⑤ 7 電卓実践演習⑥ 8 電卓実践演習⑦ 9 電卓実践演習⑧ 10 電卓実践演習⑨ 11 電卓実践演習⑩ 12 電卓実践演習⑪ 13 電卓実践演習⑫ 14 電卓実践演習⑬ 15 電卓実践演習⑭ 16 電卓実践演習⑮ 17 電卓実践演習⑯ 18 電卓実践演習⑰ 19 電卓実践演習⑱ 20 電卓実践演習⑲	
成績評価方法 (試験実施方法)	模擬試験100% 模擬試験における得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	ビジネスマナー	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	必修	
授業方法	講義	
授業時間	80時間	
授業コマ数	40コマ	
授業概要	働くうえで備えておくべき基本的な心構えや一般知識を理解する	
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る	
達成目標	基本的な職場常識・職務の知識を身に付ける	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	1 職場での心構え① 2 職場での心構え② 3 職場での心構え③ 4 職場での心構え④ 5 職場での心構え⑤ 6 職場に必要な能力① 7 職場に必要な能力② 8 職場に必要な能力③ 9 職場に必要な能力④ 10 職場に必要な能力⑤ 11 職場に必要な能力⑥ 12 職場に必要な能力⑦ 13 職場に必要な能力⑧ 14 職場に必要な能力⑨ 15 職場に必要な能力⑩ 16 職場の役割と機能① 17 職場の役割と機能② 18 職場の役割と機能③ 19 職場の役割と機能④ 20 職場の役割と機能⑤ 21 秘書の職務① 22 秘書の職務② 23 秘書の職務③ 24 秘書の職務④ 25 秘書の職務⑤ 26 企業の基礎知識① 27 企業の基礎知識② 28 企業の基礎知識③ 29 企業の基礎知識④ 30 企業の基礎知識⑤	31 企業の基礎知識⑥ 32 企業の基礎知識⑦ 33 企業の基礎知識⑧ 34 企業の基礎知識⑨ 35 企業の基礎知識⑩ 36 企業組織の活動① 37 企業組織の活動② 38 社会常識① 39 社会常識② 40 社会常識③
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	マナー接遇基礎	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	必修	
授業方法	講義	
授業時間	40時間	
授業コマ数	20コマ	
授業概要	働くうえで備えておくべき基本的な心構えや一般知識を理解する	
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る	
達成目標	基本的な職場常識・職務の知識を身に付ける	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	1 職場での心構え① 2 職場での心構え② 3 職場での心構え③ 4 職場に必要な能力① 5 職場に必要な能力② 6 職場に必要な能力③ 7 職場の役割と機能① 8 職場の役割と機能② 9 職場の役割と機能③ 10 秘書の職務① 11 秘書の職務② 12 秘書の職務③ 13 企業の基礎知識① 14 企業の基礎知識② 15 企業の基礎知識③ 16 企業組織の活動① 17 企業組織の活動② 18 社会常識① 19 社会常識② 20 社会常識③	
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	マナー接遇応用	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	80時間	
授業コマ数	40コマ	
授業概要	職場でのマナー・技能を理解する	
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る	
達成目標	職場での電話応対・来客対応、ビジネス文書作成の知識を身に付ける	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	1 人間関係と話し方・聞き方① 2 人間関係と話し方・聞き方② 3 人間関係と話し方・聞き方③ 4 人間関係と話し方・聞き方④ 5 人間関係と話し方・聞き方⑤ 6 敬語と接遇用語① 7 敬語と接遇用語② 8 敬語と接遇用語③ 9 敬語と接遇用語④ 10 敬語と接遇用語⑤ 11 電話応対① 12 電話応対② 13 電話応対③ 14 電話応対④ 15 電話応対⑤ 16 来客応対① 17 来客応対② 18 来客応対③ 19 来客応対④ 20 来客応対⑤ 21 交際業務① 22 交際業務② 23 交際業務③ 24 交際業務④ 25 交際業務⑤ 26 ビジネス文書の作成① 27 ビジネス文書の作成② 28 ビジネス文書の作成③ 29 ビジネス文書の作成④ 30 ビジネス文書の作成⑤	31 文書・資料管理① 32 文書・資料管理② 33 文書・資料管理③ 34 文書・資料管理④ 35 日程管理① 36 日程管理② 37 日程管理③ 38 日程管理④ 39 環境整備① 40 環境整備②
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	スポーツ（実技）	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	必修	
授業方法	講義及び演習	
授業時間	40時間	
授業コマ数	20コマ	
授業概要	学習した健康や運動に対する知識やスキルを活かし、安全で効果的な運動プログラムを作成し、指導することを目的とする。	
授業の進め方	動作と指導練習により、確実な知識とスキルの定着を図る	
達成目標	各年代の身体特徴をとらえながら、安全で効果的な運動プログラムを作成し、指導ができるようになる。	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種競技のウォーミングアップのプログラム作成と動作練習① 2 各種競技のウォーミングアップのプログラム作成と動作練習② 3 各種競技のウォーミングアップのプログラムの指導練習① 4 各種競技のウォーミングアップのプログラムの実践① 5 各種競技のクールダウンのプログラム作成と動作練習① 6 各種競技のクールダウンのプログラム作成と動作練習② 7 各種競技のクールダウンのプログラム実践① 8 転倒予防体操教室（立位編）のプログラム作成と動作練習① 9 転倒予防体操教室（立位編）のプログラム作成と動作練習② 10 転倒予防体操教室（立位編）のプログラム指導練習① 11 転倒予防体操教室（立位編）のプログラム指導練習② 12 転倒予防体操教室（立位編）のプログラム実践① 13 転倒予防体操教室（座位編）のプログラム作成と動作練習① 14 転倒予防体操教室（座位編）のプログラム作成と動作練習② 15 転倒予防体操教室（座位編）のプログラム指導練習① 16 転倒予防体操教室（座位編）のプログラム実践① 17 子供向け身体ほぐしプログラム作成と動作練習① 18 子供向け身体ほぐしプログラム作成と動作練習② 19 子供向け身体ほぐしプログラム指導練習① 20 子供向け身体ほぐしプログラム実践① 	
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100%	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容			
授業科目	企業体験実習			
実務家教員	○			
学部・学科	スポーツ学科			
履修年次	2年次			
開講学期	2学期			
科目区分	必修			
授業方法	実習			
授業時間	200時間			
授業コマ数	100コマ			
授業概要	マーケティングの基礎を使い企画をグループにて提案し知識習得を図る			
授業の進め方	課題演習と解説に加え、必要に応じて復習講義を行い、より高度な知識定着を図る			
達成目標	実際店舗を題材にしたマーケティングを行い調査結果に基づく新規営業企画を提案する			
教科書	テキスト及び参考書			
特記	実務家により各業界において必要なマーケティングを現在する店舗を基に授業を行う。			
授業計画	1	マーケティングコンテストⅠガイダンス	31	マーケティングコンテストⅢ店舗分析⑩
	2	マーケティングコンテストⅠ業界分析①	32	マーケティングコンテストⅣ店舗見学①
	3	マーケティングコンテストⅠ業界分析②	33	マーケティングコンテストⅣ店舗見学②
	4	マーケティングコンテストⅠ業界分析③	34	マーケティングコンテストⅣ店舗見学③
	5	マーケティングコンテストⅠ業界分析④	35	マーケティングコンテストⅣ店舗見学④
	6	マーケティングコンテストⅠ業界分析⑤	36	マーケティングコンテストⅤ課題抽出①
	7	マーケティングコンテストⅠ業界分析⑥	37	マーケティングコンテストⅤ課題抽出②
	8	マーケティングコンテストⅠ業界分析⑦	38	マーケティングコンテストⅤ課題抽出③
	9	マーケティングコンテストⅠ業界分析⑧	39	マーケティングコンテストⅤ課題抽出④
	10	マーケティングコンテストⅠ業界分析⑨	40	マーケティングコンテストⅤ課題抽出⑤
	11	マーケティングコンテストⅠ業界分析⑩	41	マーケティングコンテストⅤ課題抽出⑥
	12	マーケティングコンテストⅡ店舗概要確認①	42	マーケティングコンテストⅤ課題抽出⑦
	13	マーケティングコンテストⅡ店舗概要確認②	43	マーケティングコンテストⅤ課題抽出⑧
	14	マーケティングコンテストⅡ店舗概要確認③	44	マーケティングコンテストⅤ課題抽出⑨
	15	マーケティングコンテストⅡ店舗概要確認④	45	マーケティングコンテストⅤ課題抽出⑩
	16	マーケティングコンテストⅡ店舗概要確認⑤	46	マーケティングコンテストⅥ仮説作成①
	17	マーケティングコンテストⅡ店舗概要確認⑥	47	マーケティングコンテストⅥ仮説作成②
	18	マーケティングコンテストⅡ店舗概要確認⑦	48	マーケティングコンテストⅥ仮説作成③
	19	マーケティングコンテストⅡ店舗概要確認⑧	49	マーケティングコンテストⅥ仮説作成④
	20	マーケティングコンテストⅡ店舗概要確認⑨	50	マーケティングコンテストⅥ仮説作成⑤
	21	マーケティングコンテストⅡ店舗概要確認⑩	51	マーケティングコンテストⅥ仮説作成⑥
	22	マーケティングコンテストⅢ店舗分析①	52	マーケティングコンテストⅥ仮説作成⑦
	23	マーケティングコンテストⅢ店舗分析②	53	マーケティングコンテストⅥ仮説作成⑧
	24	マーケティングコンテストⅢ店舗分析③	54	マーケティングコンテストⅥ仮説作成⑨
	25	マーケティングコンテストⅢ店舗分析④	55	マーケティングコンテストⅥ仮説作成⑩
	26	マーケティングコンテストⅢ店舗分析⑤	56	マーケティングコンテストⅦ調査・検証①
	27	マーケティングコンテストⅢ店舗分析⑥	57	マーケティングコンテストⅦ調査・検証②
	28	マーケティングコンテストⅢ店舗分析⑦	58	マーケティングコンテストⅦ調査・検証③
	29	マーケティングコンテストⅢ店舗分析⑧	59	マーケティングコンテストⅦ調査・検証④
	30	マーケティングコンテストⅢ店舗分析⑨	60	マーケティングコンテストⅦ調査・検証⑤
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 企業等から得られた助言を活かし予め評価項目を決定し成果を測定する			
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。			

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	企業体験実習	
実務家教員	○	
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	2学期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	200時間	
授業コマ数	100コマ	
授業概要	マーケティングの基礎を使い企画をグループにて提案し知識習得を図る	
授業の進め方	課題演習と解説に加え、必要に応じて復習講義を行い、より高度な知識定着を図る	
達成目標	実際店舗を題材にしたマーケティングを行い調査結果に基づく新規営業企画を提案する	
教科書	テキスト及び参考書	
特記	実務家により各業界において必要なマーケティングを現在する店舗を基に授業を行う。	
授業計画	61 マーケティングコンテストⅦ調査・検証⑥ 62 マーケティングコンテストⅦ調査・検証⑦ 63 マーケティングコンテストⅦ調査・検証⑧ 64 マーケティングコンテストⅦ調査・検証⑨ 65 マーケティングコンテストⅦ調査・検証⑩ 66 マーケティングコンテストⅧ利益獲得にむけた企画提案作成① 67 マーケティングコンテストⅧ利益獲得にむけた企画提案作成② 68 マーケティングコンテストⅧ利益獲得にむけた企画提案作成③ 69 マーケティングコンテストⅧ利益獲得にむけた企画提案作成④ 70 マーケティングコンテストⅧ利益獲得にむけた企画提案作成⑤ 71 マーケティングコンテストⅧ利益獲得にむけた企画提案作成⑥ 72 マーケティングコンテストⅧ利益獲得にむけた企画提案作成⑦ 73 マーケティングコンテストⅧ利益獲得にむけた企画提案作成⑧ 74 マーケティングコンテストⅧ利益獲得にむけた企画提案作成⑨ 75 マーケティングコンテストⅧ利益獲得にむけた企画提案作成⑩ 76 マーケティングコンテストⅨ中間発表① 77 マーケティングコンテストⅨ中間発表② 78 マーケティングコンテストⅩアドバイスに基づく企画案の再検討① 79 マーケティングコンテストⅩアドバイスに基づく企画案の再検討② 80 マーケティングコンテストⅩアドバイスに基づく企画案の再検討③ 81 マーケティングコンテストⅩアドバイスに基づく企画案の再検討④ 82 マーケティングコンテストⅩアドバイスに基づく企画案の再検討⑤ 83 マーケティングコンテストⅩアドバイスに基づく企画案の再検討⑥ 84 マーケティングコンテストⅩアドバイスに基づく企画案の再検討⑦ 85 マーケティングコンテストⅩアドバイスに基づく企画案の再検討⑧ 86 マーケティングコンテストⅩアドバイスに基づく企画案の再検討⑨ 87 マーケティングコンテストⅩアドバイスに基づく企画案の再検討⑩ 88 マーケティングコンテストⅪ発表準備① 89 マーケティングコンテストⅪ発表準備② 90 マーケティングコンテストⅪ発表準備③	91 マーケティングコンテストⅪ発表準備④ 92 マーケティングコンテストⅪ発表準備⑤ 93 マーケティングコンテストⅪ発表準備⑥ 94 マーケティングコンテストⅪ発表準備⑦ 95 マーケティングコンテストⅪ発表準備⑧ 96 マーケティングコンテストⅪ発表準備⑨ 97 マーケティングコンテストⅪ発表準備⑩ 98 マーケティングコンテストⅩⅡ学校大会① 99 マーケティングコンテストⅩⅡ学校大会② 100 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 企業等から得られた助言を活かし予め評価項目を決定し成果を測定する	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	マーケティング研究	
実務家教員	○	
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	2学期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	40時間	
授業コマ数	20コマ	
授業概要	様々な職種に求められるマーケティングの基礎知識習得を図る	
授業の進め方	問題演習と解説に加え、必要に応じて復習講義を行い、より高度な知識定着を図る	
達成目標	マーケティングを行い調査結果に基づく提案を発表する。	
教科書	テキスト及び参考書	
特記	実務家により各業界において必要なマーケティングを現代に併せた授業を行う。	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・オリエンテーション 2 マーケティングと顧客満足Ⅰマーケティングの必要性・マーケティングの4P 3 マーケティングと顧客満足Ⅱお客様とは・製品、商品、サービス 4 マーケティングと顧客満足Ⅲ流通チャンネル・プロモーション戦略 5 会社の目的とはⅠ会社の目的・財務知識・決算書・損益計算書 6 会社の目的とはⅡ利益率・販売費及び一般管理費・営業外収益・営業外費用・特別利益・特別損失 7 会社の目的とはⅢ事例研究①・②・③ 8 会社の目的とはⅣ貸借対照表ってなあに？・どちらが良い会社？・流動比率は、倒産比率 9 会社の目的とはⅤ固定比率が高いとは固定資産が多いこと？・同業企業における比較、貸借対照表の診断結果 10 会社の目的とはⅥ実務編 11 SSにおけるマーケティングⅠマーケティングの流れ 12 SSにおけるマーケティングⅡ売上の構成要素① 13 SSにおけるマーケティングⅡ売上の構成要素② 14 SSにおけるマーケティングⅡ売上の構成要素③ 15 前年度マーケティングコンテストVTR視聴・効果測定 16 様々なマーケティングⅠマーケティングの種類・エリアマーケティングの必要性・進め方 17 様々なマーケティングⅢ情報分析の手法① 18 様々なマーケティングⅢ情報分析の手法② 19 プレ卒業研究① 20 プレ卒業研究② 	
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 企業等から得られた助言を活かし予め評価項目を決定し成果を測定する	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	接遇マナー実践	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	3学期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	80時間	
授業コマ数	40コマ	
授業概要	企業内で必要とされる接遇に関する基本的なルールの学習をする	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	企業内での接遇に関する基本的な所作を演習し、習得する	
教科書	オリジナルテキスト・レジュメ	
特記		
授業計画	1 接遇マナーとは 2 接遇の心構え 3 お茶の入れ方、出し方 4 お見送り 5 後片付け 6 接遇の流れ① 7 接遇の流れ② 8 演習① 9 演習② 10 演習③ 11 演習④ 12 演習⑤ 13 演習⑥ 14 演習⑦ 15 演習⑧ 16 演習⑨ 17 演習⑩ 18 演習⑪ 19 演習⑫ 20 演習⑬ 21 演習⑭ 22 演習⑮ 23 演習⑯ 24 演習⑰ 25 演習⑱ 26 演習⑲ 27 演習⑳ 28 演習㉑ 29 演習㉒ 30 演習㉓	31 演習㉔ 32 演習㉕ 33 演習㉖ 34 演習㉗ 35 演習㉘ 36 演習㉙ 37 演習㉚ 38 演習㉛ 39 効果測定① 40 効果測定②
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	パソコン実習Ⅱ	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	2学期	
科目区分	必修	
授業方法	講義及び演習	
授業時間	80時間	
授業コマ数	40コマ	
授業概要	Officeソフトの基本操作を身に付けることを目的とする。 ワード・エクセルの操作方法の復習と他のソフトの基本操作について学ぶ。	
授業の進め方	基本的なレクチャーを受けながら実際に端末を操作する	
達成目標	Word：アウトライン機能や校閲機能を用い、効率的に正確なビジネス文章を作成することができる Excel：ピボットテーブルを使用して複雑なデータ集計を行うことができ、かつ、マクロ機能を使用して自動処理化することができる	
教科書	テキスト及び参考書	
特記	反復練習と効果測定により、確実な知識とスキルの定着を図る	
授業計画	1 文章の作成と管理① 2 文章の作成と管理② 3 文章の作成と管理③ 4 表作成の基本操作① 5 表作成の基本操作② 6 表作成の基本操作③ 7 表、画像、図形を使った文書の作成（2）① 8 表、画像、図形を使った文書の作成（2）② 9 表、画像、図形を使った文書の作成（2）③ 10 見やすく使いやすい表にする編集操作① 11 見やすく使いやすい表にする編集操作② 12 見やすく使いやすい表にする編集操作③ 13 見やすく使いやすい表にする編集操作④ 14 見やすく使いやすい表にする編集操作⑤ 15 見やすく使いやすい表にする編集操作⑥ 16 数式・関数を活用した集計表の作成① 17 数式・関数を活用した集計表の作成② 18 数式・関数を活用した集計表の作成③ 19 ワークシート間の集計① 20 ワークシート間の集計② 21 ワークシート間の集計③ 22 グラフの基本① 23 グラフの基本② 24 グラフの基本③ 25 目的に応じたグラフの作成と編集① 26 目的に応じたグラフの作成と編集② 27 目的に応じたグラフの作成と編集③ 28 データベース機能の利用① 29 データベース機能の利用② 30 データベース機能の利用③	31 データの抽出① 32 データの抽出② 33 データの抽出③ 34 ピボットテーブル① 35 ピボットテーブル② 36 ピボットテーブル③ 37 マクロによる作業の自動化① 38 マクロによる作業の自動化② 39 マクロによる作業の自動化③ 40 マクロによる作業の自動化④
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	実務会計実習	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	2学期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	40時間	
授業コマ数	20コマ	
授業概要	商企業を前提とした事務手続きに必要な知識習得を目的とする。 商品の発注・受注から納品・請求までの一連の事務手続きについて学ぶ。	
授業の進め方	反復練習と効果測定により、確実な知識とスキルの定着を図る	
達成目標	会計上・税務上のポイントを捉え経理・財務の基礎的な業務知識を身に付ける	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	1 売掛債権管理① 2 売掛債権管理② 3 売掛債権管理③ 4 売掛債権管理④ 5 買掛債務管理① 6 買掛債務管理② 7 買掛債務管理③ 8 買掛債務管理④ 9 在庫管理① 10 在庫管理② 11 在庫管理③ 12 在庫管理④ 13 固定資産① 14 固定資産② 15 固定資産③ 16 固定資産④ 17 ソフトウェア管理① 18 ソフトウェア管理② 19 ソフトウェア管理③ 20 ソフトウェア管理④	
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	オフィス基礎	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	40時間	
授業コマ数	20コマ	
授業概要	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用法を習得する	
授業の進め方	反復練習と効果測定により、確実な知識とスキルの定着を図る	
達成目標	MOS Excelレベルの操作を習得する	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ワークシートやブックの作成と管理① 2 ワークシートやブックの作成と管理② 3 セルやセル範囲のデータの管理① 4 セルやセル範囲のデータの管理② 5 テーブルの作成① 6 テーブルの作成② 7 テーブルの作成③ 8 関数を使用してのデータ集計① 9 関数を使用してのデータ集計② 10 関数を使用してのデータ集計③ 11 関数を使用しての条件付き計算① 12 関数を使用しての条件付き計算② 13 関数を使用しての条件付き計算③ 14 関数を使用した文字列の整形や変更① 15 関数を使用した文字列の整形や変更② 16 関数を使用した文字列の整形や変更③ 17 グラフの作成① 18 グラフの作成② 19 グラフの作成③ 20 グラフの作成④ 	
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	オフィス活用	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	選択	
授業方法	実習	
授業時間	80時間	
授業コマ数	40コマ	
授業概要	ビジネスで活用できる操作能力を身に付けることを目的とする。会計データ作成などより実務に役立つ能力を身に付ける	
授業の進め方	問題演習と解説に加え、必要に応じて復習操作を行い、より高度な操作定着を図る	
達成目標	学習したパソコンスキルを活かし、テーマに合わせた資料作成・企画案作成・プレゼンテーションの実施	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 新規プレゼンテーションの作成と編集① 2 新規プレゼンテーションの作成と編集② 3 新規プレゼンテーションの作成と編集③ 4 新規プレゼンテーションの作成と編集④ 5 新規プレゼンテーションの作成と編集⑤ 6 新規プレゼンテーションの作成と編集⑥ 7 新規プレゼンテーションの作成と編集⑦ 8 新規プレゼンテーションの作成と編集⑧ 9 新規プレゼンテーションの作成と編集⑨ 10 新規プレゼンテーションの作成と編集⑩ 11 テキスト・図形・画像の挿入と編集① 12 テキスト・図形・画像の挿入と編集② 13 テキスト・図形・画像の挿入と編集③ 14 テキスト・図形・画像の挿入と編集④ 15 テキスト・図形・画像の挿入と編集⑤ 16 テキスト・図形・画像の挿入と編集⑥ 17 テキスト・図形・画像の挿入と編集⑦ 18 テキスト・図形・画像の挿入と編集⑧ 19 テキスト・図形・画像の挿入と編集⑨ 20 テキスト・図形・画像の挿入と編集⑩ 21 表・グラフ・SmartArt、メディアの挿入と設定① 22 表・グラフ・SmartArt、メディアの挿入と設定② 23 表・グラフ・SmartArt、メディアの挿入と設定③ 24 表・グラフ・SmartArt、メディアの挿入と設定④ 25 表・グラフ・SmartArt、メディアの挿入と設定⑤ 26 特殊効果の設定とスライドショー① 27 特殊効果の設定とスライドショー② 28 特殊効果の設定とスライドショー③ 29 特殊効果の設定とスライドショー④ 30 特殊効果の設定とスライドショー⑤	31 企画立案① 32 企画立案② 33 企画立案③ 34 企画立案④ 35 企画立案⑤ 36 企画書の作成① 37 企画書の作成② 38 企画書の作成③ 39 企画書の作成④ 40 企画発表（効果測定）
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	パソコン実習	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	選択	
授業方法	実習	
授業時間	80時間	
授業コマ数	40コマ	
授業概要	MOS Excel試験に合格するために必要な操作に関する総合的な知識を身につけるためのトレーニング	
授業の進め方	問題演習と解説に加え、必要に応じて復習講義を行い、より高度な知識定着を図る	
達成目標	Excelの主な機能を利用して、複数のシートを含むブックの作成・編集、データの抽出や並べ替え、数式の作成、関数の使用、グラフを利用したデータの視覚的表現、印刷設定など、さまざまな目的や状況に応じて数値データを扱うことができる	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 グラフの書式設定① 2 グラフの書式設定② 3 グラフの書式設定③ 4 グラフの書式設定④ 5 グラフの書式設定⑤ 6 オブジェクトの挿入や書式設定① 7 オブジェクトの挿入や書式設定② 8 オブジェクトの挿入や書式設定③ 9 オブジェクトの挿入や書式設定④ 10 オブジェクトの挿入や書式設定⑤ 11 オブジェクトの挿入や書式設定⑥ 12 ワークシートやブックの作成と管理 13 セルやセル範囲のデータの管理 14 テーブルの作成① 15 テーブルの作成② 16 関数を使用するデータの集計① 17 関数を使用するデータの集計② 18 関数を使用する条件付き計算① 19 関数を使用する条件付き計算② 20 関数を使用する条件付き計算③ 21 関数を使用した文字列の整形や変更① 22 関数を使用した文字列の整形や変更② 23 グラフの作成① 24 グラフの作成② 25 グラフの作成③ 26 グラフの作成④ 27 グラフの作成⑤ 28 グラフの作成⑥ 29 グラフの書式設定① 30 グラフの書式設定②	31 グラフの書式設定③ 32 グラフの書式設定④ 33 グラフの書式設定⑤ 34 オブジェクトの挿入や書式設定① 35 オブジェクトの挿入や書式設定② 36 オブジェクトの挿入や書式設定③ 37 オブジェクトの挿入や書式設定④ 38 オブジェクトの挿入や書式設定⑤ 39 オブジェクトの挿入や書式設定⑥ 40 オブジェクトの挿入や書式設定⑦
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	医療請求実務 I	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
授業時間	80時間	
授業コマ数	40コマ	
授業概要	診療録（カルテ）から明細書（レセプト）を作成するための基礎的な知識を学ぶ	
授業の進め方	問題演習と解説に加え必要に応じて復讐講義を行い、より高度な知識定着を図る	
達成目標	診療報酬における請求事務の基礎を理解する。	
教科書	オリジナルテキスト・配布プリント・資料	
特記		
授業計画	1 医療保険制度、医療保険の給付 2 初診料 3 初診料レセプト記載法 4 再診料 5 再診料レセプト記載法 6 医学管理等 7 医学管理等レセプト記載法 8 投薬料 9 投薬料レセプト記載法 10 注射料 11 注射料レセプト記載法 12 処置料 13 処置料レセプト記載法 14 手術料 15 手術料レセプト記載法 16 検査料 17 検査料レセプト記載法 18 画像診断料 19 画像診断料レセプト記載法 20 処方せん料、処方せん料レセプト記載法 21 レセプト基礎問題① 22 レセプトフォロー基礎問題① 23 レセプト基礎問題② 24 レセプトフォロー基礎問題② 25 レセプト基礎問題③ 26 レセプトフォロー基礎問題③ 27 レセプト基礎問題④ 28 レセプトフォロー基礎問題④ 29 レセプト基礎問題⑤ 30 レセプトフォロー基礎問題⑤	31 レセプト応用問題① 32 レセプトフォロー応用問題① 33 レセプト応用問題② 34 レセプトフォロー応用問題② 35 レセプト応用問題③ 36 レセプトフォロー応用問題③ 37 レセプト応用問題④ 38 レセプトフォロー応用問題④ 39 レセプト応用問題⑤ 40 レセプトフォロー応用問題⑤
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100%	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	医療秘書概論	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
授業時間	40時間	
授業コマ数	20コマ	
授業概要	医療秘書の職務と役割を理解するための基礎的な知識を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	医療秘書における基礎的な知識を理解する。	
教科書	医療秘書（株式会社メディカルエデュケーション）	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本の医療制度と特徴 2 病院の組織と運営 3 医療秘書の仕事と役割 4 求められる人物像 5 医療サービスと待遇 6 患者対応の基本 7 患者対応の応用 8 敬語について 9 ビジネス文章と文章作成 10 院外文章の作成 11 院内文章の作成 12 復習① 13 復習② 14 総合演習① 15 総合演習② 16 総合演習③ 17 総合演習④ 18 総合演習⑤ 19 総合演習⑥ 20 総合演習⑦ 	
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100%	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	病院管理論 I	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
授業時間	40時間	
授業コマ数	20コマ	
授業概要	医療秘書の職務と役割を理解するための基礎的な知識を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	医療秘書における基礎的な知識を理解する。	
教科書	病院のマネージメント（健帛社）	
特記		
授業計画	1 病院の目的と機能 2 診療部門 3 看護部門 4 服診療技術部門 5 薬剤部門 6 栄養・給食部門 7 臨床試験センター 8 人間関係のマネジメント 9 事務部門 10 復讐① 11 復讐② 12 復讐③ 13 復讐④ 14 復讐⑤ 15 総合演習① 16 総合演習② 17 総合演習③ 18 総合演習④ 19 総合演習⑤ 20 総合演習⑥	
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100%	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	医学基礎知識	
実務家教員		
学部・学科	スポーツ学科	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
授業時間	40時間	
授業コマ数	20コマ	
授業概要	医療秘書の職務と役割を理解するための基礎的な知識を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	医療秘書における基礎的な知識を理解する。	
教科書	DMT Disease&Medicinal therapy (株式会社 薬ゼミ情報教育センター)	
特記		
授業計画	1 脳 2 眼科 3 神経系① 4 神経系② 5 耳鼻咽喉科 6 循環器科① 7 循環器科② 8 皮膚 9 呼吸器系の仕組み 10 呼吸器系疾患 11 消化器系の仕組み 12 消化器系疾患 13 骨格・筋系の仕組み 14 骨格・筋系疾患 15 代謝・内分泌系の仕組み 16 代謝・内分泌系疾患 17 体液・血液系の仕組み 18 体液・血液系疾患 19 復讐① 20 復讐②	
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100%	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	